

第四章 限りなき前進

岡山連盟のスカウトが永年念願していた日本ジャンボリーの岡山県への誘致も、昭和41年8月日本原において第4回日本ジャンボリーを開催することによって達成された。このジャンボリーを契機として岡山連盟は一大飛躍をとげるため、組織の拡張・スカウトの進歩促進・指導者の養成・財政基盤の確立等に全力を尽すことを心に固く誓い、長期計画に基づいて諸施策を進めていくことにした。

当時の社会情勢は、激動の時代・不確実性の時代となり、特に昭和43年は全国的に学生騒動が拡大し、明治100年の記念すべき年ではあったが、学生騒動のあおりをうけて東京大学は昭和44年度の入学試験を中止するに至った。その反面国内の景気は好況をきたし、「いざなぎ景気」と称せられるほどに経済の発展をとげたが、それに比例して自然の破壊・公害の増大をまねき大きな社会問題となってきた。この好景気も昭和47年産油国の強硬な原油値上げにより、国内経済は石油ショックを受けて、今までの高度経済成長による好景気も不安定な徴候がみえはじめた。

また、教育の面においては昭和50年頃から青少年の自殺が急増し、年齢も低下してきた。それに引き続いて暴走族の横行・少年による殺人事件の増加・青少年の家庭内での暴力・学校での生徒の暴力化が大きな問題となり、戦後第3の青少年非行のピークを迎え、その対策が重要課題となるに至った。

これに対してボーイスカウトの状況をみると、第4回日本ジャンボリー終了後、すでに決定していた第13回世界ジャンボリーの日本での開催に対する準備に入るとともに、第13回世界ジャンボリーまでに組織の拡大をはかるため、昭和43年度から組織倍増3カ年計画を樹立し、きめ細かな施策を実施した。そして昭和45年8月に第5回日本ジャンボリー、引き続いて昭和46年8月に第13回世界ジャンボリーを静岡県富士山麓の朝霧高原で開催したが、この2年にわたるジャンボリーの開催はいろいろな面で反省の機会を与えるとともに、日本のボーイスカウトにとって一時期を画するものであった。

昭和47年は、日本ボーイスカウト結成50周年にあたり、天皇陛下をお迎えして盛大な記念式典が11月5日に東京都代々木の明治神宮会館で挙行された。これを契機として日本のボーイスカウトは生気をみなぎらせて活発な活動を開始した。

昭和48年から第1次組織倍増5カ年計画、昭和53年から第2次組織倍増5カ年計画を立て全国的に強力な組織の拡大をはかってきた。

それにともない、カブ・ボーイ・シニア各部門のプログラムの大改革を行い、また指導者養成については、昭和44年から世界訓練委員会の方針に従いギルウェル方式からウッドバッジ方式にかえて整備した。また昭和52年度から団委員長特修所を開設し、昭和55年度からコミッション―特修所を開設することにした。そして今までの指導者養成要員であった、「デプティキャンプ

チーフ」(D・C・C)や「アケーラリーダー」(A・K・L)にかわってリーダートレーナーが指導者訓練要員として日本連盟のトレーニングチームを編成し、ウッドバッジ研修所・実修所その他指導者養成の定型訓練コースの所員や講師として奉仕するとともに、作業チームを作り指導者養成に関係のある資料の作成等を行うようになった。

健康安全の面からみると、三重県でおこった子供会の野外活動中での水死事故において、指導にあたっていたリーダーが刑事責任を問われたことに端を発し、訓練中の事故に対する賠償問題を解決するため、昭和55年度から全国の登録スカウトと指導者に対して賠償保険を日本連盟において掛けることになった。

野外出行のうへでは、昭和49年に北海道千歳において第6回日本ジャンボリー、そして昭和53年に富士山麓御殿場市近傍の第3回日本ジャンボリーを開催した場所で第7回日本ジャンボリーを行った。

ボーイスカウト岡山連盟としては、昭和46年に年来の希望であった維持財団を設立するとともに、昭和48年には日本連盟に呼応して組織倍増5カ年計画を作成し、組織の拡大に努めた。また指導者養成のうへからみると、

昭和43年8月 中国地方指導者実修所C S課程中国第2期 (所長 佐藤俊夫)

昭和46年8月 ウッドバッジ研修所B S課程岡山第1期 (所長 長田信一)

昭和48年9月 ウッドバッジ研修所C S課程岡山第1期 (所長 長田信一)

昭和50年5月 ウッドバッジ研修所C S課程岡山第2期 (所長 山口克正)

昭和50年7月 ウッドバッジ研修所B S課程岡山第2期 (所長 松本 猛)

昭和53年1月 ウッドバッジ研修所C S課程岡山第3期 (所長 山口克正)

昭和53年5月 ウッドバッジ研修所S S課程岡山第1期 (所長 長田信一)

と7コースの研修所を開設して隊指導者の養成にあたるとともに、日本連盟が今まで那須野で開設していたウッドバッジ実修所を岡山へ誘致して次の5コースを開設した。

昭和49年9月 ウッドバッジ実修所C S課程第20期 (所長 長田信一)

昭和49年11月 ウッドバッジ実修所B S課程第33期 (所長 山田利雄)

昭和50年8月 ウッドバッジ実修所B S課程第36期 (所長 山下精章)

昭和50年9月 ウッドバッジ実修所C S課程第23期 (所長 長田信一)

昭和52年9月 ウッドバッジ実修所C S課程第31期 (所長 杉原 正)

このように指導者養成には特に力を入れ、各地区におけるラウンドテーブル、非定型コースの各種研究会(野営技術研修会・カブスカウト指導者特技研究会・カブ隊テーマ作成研究会)等を開催し、隊指導者の指導技術の向上をはかるとともに、団委員研修会を開催して団運営についての研修をも毎年実施してきた。このように研修所・実修所の開設にともない、入所者を確保するため指導者講習会をも頻繁に開催し、年間開催回数および受講者数も岡山連盟結成以来の最大記録となった。昭和41年に岡山県へ第4回日本ジャンボリーを誘致開催して以後の岡山連盟は、指導者養成の全盛期であったといえるであろう。

スカウトの進歩の点からみると、岡山連盟としてはボーイスカウトの語学キャンプ、シニアスカウトのスノーキャンプ・スカウトフォーラムなど進歩を促進する行事を実施してきたが、各隊の実情は必ずしもスカウトの進歩が促進向上したとはいえなかった。特に技能章・特修章・矢章の取得状況それに伴う進級等から考えてみてスカウト訓練が停滞状況にあるのではないかとと思われる。進級のうえからみても昭和46年に光畑俊行が富士スカウトに進級して以来、1名も富士スカウトへの進級者が出ていない。

野営行事のうえでは、

昭和43年9月に岡山県ボーイスカウトラリー

昭和44年8月に岡山連盟結成20周年記念野営大会

昭和48年8月に岡山連盟発足25周年記念野営大会

昭和51年8月に西日本ジャンボリー

を実施するとともに、第5回から第7回までの日本ジャンボリーならびに第13回世界ジャンボリーに派遣団を編成して参加し、また、世界ジャンボリーやフィリピンジャンボリーなど海外への指導者、スカウトの派遣も行ってきた。

健康安全のうえでは、昭和42年度からスカウト傷害保険を県連盟独自で登録スカウト、指導者全員に掛けることにし、住友海上火災保険会社と契約した。この傷害保険は、スカウトの訓練中に傷害があった場合最高100万円まで補償するということで、その保険掛金は登録料に含めて徴収していた。この傷害保険も昭和56年度から掛金も保険金額もふやす予定で、そのほかに日本連盟が登録スカウト全員に対し、事故の場合保護者からの賠償請求に対応するため賠償保険を掛けている。この日本連盟の賠償保険は、1事故の場合1名当たり最高2,000万円、1事故で2億円、(免責額1万円)の賠償保険金が支払われることになっている。

昭和42年度

この間特記しなければならない事項は、次のとおりである。

昭和42年7月21日に岡山県農業会館においてボーイスカウト岡山連盟が岡山県青少年健全育成協会から表彰されている。

同年7月31日から8月10日にかけて、アメリカのアイダホ州フェラガットパークで行われた第12回世界ジャンボリーに指導者として大橋武志のほかスカウト5名が岡山連盟から参加している。

同年8月9日から19日にかけて、韓国のソウル市で開かれた韓国ジャンボリーにスカウト2名が参加した。

同年8月4日から8日まで島根県三瓶高原で開催された日本ボーイスカウト島根県大会に西田全司が県連盟代表として参加し、県連盟内から91名の指導者とスカウトが参加している。

第2回岡山県スカウトラリーの開催

昭和42年11月12日に倉敷市立西中学校々庭において、ボーイスカウト約500名、ガールスカウ

ト約 100 名が参加して第 2 回岡山県スカウトラリーを開催した。概要は次のとおりである。

大 会 長	金 光 国 勢
副 大 会 長	富 張 昇 ・ 日 下 孝 二 ・ 赤 木 元 蔵
	高 木 甲 一
大 会 委 員 長	加 藤 哲 弥
大 会 副 委 員 長	塚 村 英 一
大 会 運 営 委 員 長	松 本 猛
大 会 運 営 副 委 員 長	阿 部 了 ・ 石 井 集 治
演 技 進 行 係 長	小 林 信 一
設 営 係 長	石 井 集 治
審 判 係 長	片 山 千 之
記 録 係 長	大 橋 武 志
大 会 事 務 局 長	金 光 整 雄
総 務 係 長	西 田 全 司
接 待 売 店 係 長	渡 辺 督 晴

10時から開会し、10時20分から競技を開始した。主な競技は、設営競技・三つ玉競争（カブスカウト）・炊飯競技・宝探し・ロープ回し競技・集団踊り・竹馬競技・木樵ゲーム・綱引き（カブスカウト）・ネオクロスカントリー等であった。

15時から閉会式を行い、15時20分に解散している。

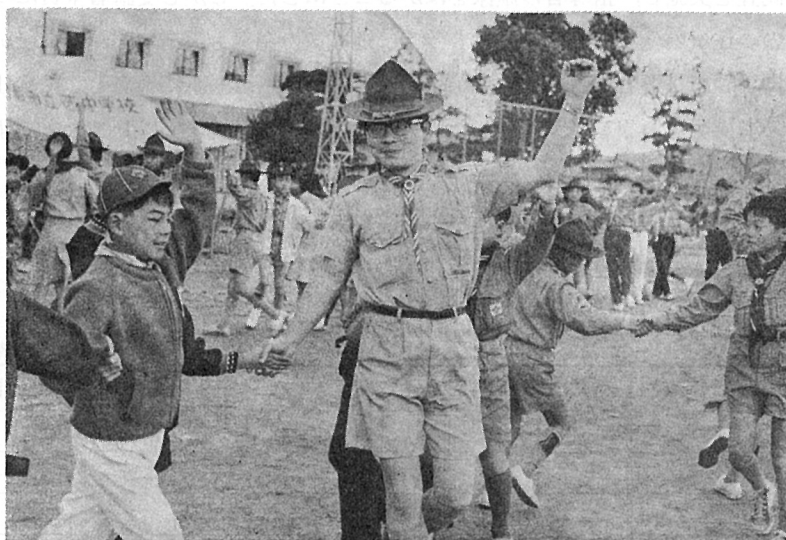
晴天に恵まれ、来賓や観客も多く楽しいスカウトラリーであった。



ロ ー プ 回 し 競 技



カブスカウトの綱引き



ボーイスカウト・ガールスカウト一緒に楽しくフォークダンス



カブスカウトの仮装競技

昭和42年度は、岡山連盟としても第5回日本ジャンボリーの終った翌年であり、とかく組織の停滞をきたし解団するところもあるのではないかと考え、組織の強化拡大に力を入れた。

そのため、大橋武志県連盟事務局職員の発案により、昭和33年以後の指導者講習会受講者名簿を整理し、受講者にハガキを出して、奉仕状況や現在ボーイスカウトに奉仕できるか否かについてアンケート調査を実施し、指導者の確保をはかることにした。しかし受講者全員について名簿は作製したものの住所の変更による不明者も多くて遂にこの発案も実施するに至らなかった。ただしこの調査によつて指導者講習会受講者が、実際にボーイスカウト指導者として奉仕している歩止まりはほんの僅かであることが判明した。この歩止まりをどのようにして大きくするかが県連盟としての今後の課題となった。

昭和42年当初における岡山連盟の現況は資料別表のとおりである。

資 料 岡山県におけるボーイスカウト教育の現況（昭和38年4月から42年4月現在）

1 過去5年間の隊増減状況

注（ ）は班（年長班・青年班）登録を示す

年度	年少隊		少年隊		年長隊		青年隊		計	
	全 国	岡山県	全 国	岡山県	全 国	岡山県	全 国	岡山県	全 国	岡山県
38	615	2	1942	37	410	2	116	—	3,083	41
39	765	4	2081	38	489	5	127	2	3,463	49
40	892	3	2213	33	609	10	113	—	3,827	46
41	1016	6	2287	42	663 (622)	12 (12)	162 (117)	— (4)	4,129	60
42	1056	9	2157	37	630 (607)	9 (11)	172 (177)	— (7)	4,015	55

2 育成団体の性格・種別

	地 域		宗教団体		学 校		企 業		施 設		ライオンズクラブ		ユース・クラブ		そ の 他		計	
	41	42	41	42	41	42	41	42	41	42	41	42	41	42	41	42	41	42
全 国	1140	1280	403	360	102	82	97	80	32	36	18	18	30	35	117	194	2239	2085
岡山県	14	12	6	6	9	6	7	7			1	1			3	3	40	35

3 スカウト年令概当人口とスカウト実数

(昭・41・12・現在)

年少隊

	a 年少隊概当者 (3年～5年)	b 年少隊実人数	a : b %
全 国	6,510,507	23,118	0.36
岡山県	41,307	105	0.26

少年隊

	a 少年隊概当者 (小6～中3)	b 少年隊実人数	a : b %
全 国	8,018,393	52,107	0.65
岡山県	65,811	769	1.17

年長隊

	a 年長隊概当者 (15才～18才)	b 年長隊実人数	a : b %
全 国	7,171,203	13,756	0.19
岡山県	56,822	271	0.48

青年隊

	a 青年隊概当者 (19才～22才)	b 青年隊実人数	a : b %
全 国	12,821,310	3,035	0.024
岡山県	77,903	20	0.026

4 指導者の職業別割合

(全国 昭・41・12・現在)
(岡山 昭・42・3・現在)

	指導者 総 数	教 員	公 務 員	会 社 員	宗教関係	学 生	農 業	自家営業	そ の 他
全 国	16,005 人	31 %	9 %	22 %	13 %	17 %	4 %	2 %	2 %
岡山県	181 人	39 %	10 %	32 %	9 %	5 %	1 %	3 %	1 %

5 岡山県における団の分布状況

(昭・42・5・現在)



昭和43年2月3日に新カブブックの改訂に伴う試行隊として児島第1団年少隊が日本連盟から委嘱され、新カブブックによって隊のプログラムを展開し、その結果を日本連盟からのアンケートに回答し報告することになった。

なおこれに伴って2月24日から25日の1泊2日間新カブブック試行隊々長説明会が、大阪市東区北久太郎町の浄土真宗大谷派難波別院を会場にして開催され、岡山連盟から松本猛県コミッショナーと試行隊々長の児島第1団年少隊長難波妙子の2名が参加した。

昭和43年度

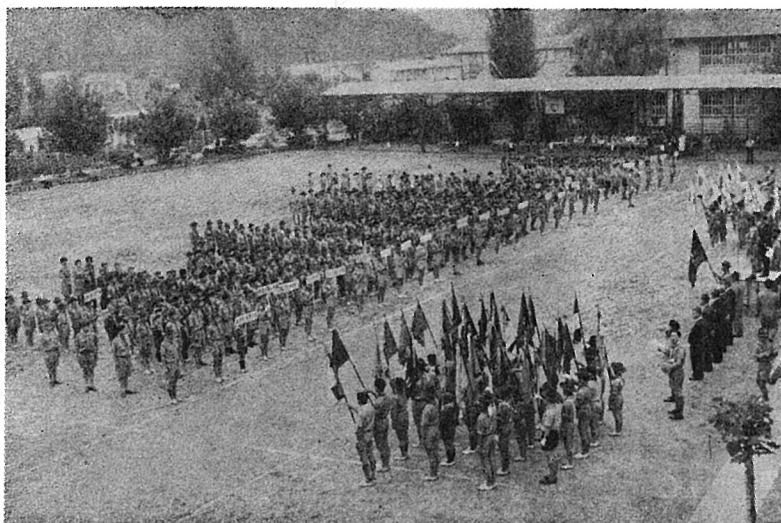
昭和43年度は日本ボーイスカウトの登録人員が15万名を突破した年である。これに伴い日本連盟は組織倍増3カ年計画を策定し強力に組織の拡大をはかることにした。

第3回岡山県ボーイスカウトラリーの開催

昭和43年9月15日に津山市立北中学校々庭において、第3回岡山県ボーイスカウトラリーを開催し、県下から800名のスカウトが参加して盛大に実施された。

大会長	金光 国勢
副大会長	富張 昇・日下 孝二・下山 練
大会委員長	瀬屋 大吉
大会副委員長	江原 滋・宮島 富徳・久山 徹
大会運営委員長	松本 猛
大会運営副委員長	阿部 了・三村 八郎
演技進行係長	小林 信一
設営係長	高橋 明治
審判係長	石井 集治
記録係長	大橋 武志
渉外係長	藤井 勝人
救護係長	片山 千之
大会事務局長	金光 整雄
総務係長	西田 全司
接待売店係長	渡辺 督晴

10時から開会式を行い、名誉副大会長である生末敏夫津山市長も寸暇をさいて出席し祝辞を述べられた。



開 会 式

開会式後各種競技を行ったが、県北では初めてのボーイスカウト競技大会であるため、参観者も多くボーイスカウトの広報宣伝には大きな成果をあげることができた。

主な競技は次のとおりである。

設営競技・ピクニックと宝さがし（カブスカウト全員）・炊飯競技・手旗通信競技・竹馬競技
ネオクロスカントリー・木樵ゲーム・アクアラングゲーム・各種自慢発表会。

15時から閉会式を行い、優勝チームを表彰したのち、15時20分に解散している。



手 旗 交 信 競 技



小さい穴からのぞいてのボールころがしゲーム（アクアラングゲーム）



竹 馬 競 技



炊 飯 競 技

昭和44年度

この年は世界ローバームートの年であり、日本ボーイスカウトにとっては、指導者養成制度が大幅に改正されギルウェル訓練方式からウッドバッジ訓練方式に変わった年である。またスカウト活動にとっては昭和30年から実施されてきた富士特別野営訓練がこの年に実施されたのを最後に中止されている。

岡山連盟結成20周年記念野営大会の開催

岡山連盟結成20周年は昭和45年にあたるのであるが、昭和45年は第5回日本ジャンボリーの開催年であるので、1年繰り上げて昭和44年8月8日から11日まで3泊4日間、岡山県真庭郡八束村塩釜にある蒜山ロッジの周辺野営場を借用して開催した。

大体の概要は次のとおりである。

- 1 趣 旨 岡山連盟結成20周年を迎えるにあたり、その歩みの中に育てられた県下スカウトが、一場に会して、日頃の訓練の成果を発表するとともに、相互の友情を深め、スカウト運動のいっそうの充実、発展を期し、青少年の健全育成を促進する。

- 2 場 所 岡山県真庭郡八束村塩釜蒜山ロッジ周辺野営地

- 3 期 日 自 昭和44年8月8日(金) } 3泊4日
至 昭和44年8月11日(月)

- 4 主 催 岡 山 県
岡 山 県 教 育 委 員 会
日本ボーイスカウト岡山連盟

- 5 後 援

ガールスカウト岡山県支部
岡山県真庭郡八束村
岡山県青少年育成県民会議
岡山県高等学校長会
岡山県中学校長会



スカウト野営大会記念バッジ

山 陽 新 聞 社
岡 山 日 日 新 聞 社
N H K 岡 山 放 送 局
山 陽 放 送 株 式 会 社
両 備 バ ス 株 式 会 社

6 参 加 資 格

- (イ) 昭和44年度の加盟登録を完了し、中学以上で2級以上のスカウト及び指導者
- (ロ) 隊長及び保護者の参加承認を受けた者
- (ハ) 所定の健康診断に合格した者
- (ニ) 指導者は団及び隊と行動を共にする者
- (ホ) スカウト関係役員並びに大会委員、大会本部で適当と認めた者

7 参 加 費

- (イ) 参加者1人当たり1,500円とし、参加申し込みと同時に納入する
- (ロ) 納入した参加費は、他のスカウトに振り替えることはできるが、払戻しはしない

8 組 織

- (1) 隊又は団の派遣団
 - (イ) 隊編成は原隊の組織を中心に、スカウトを託する指導者が同行する
 - (ロ) 各団単位に派遣団組織を考え、地区単位の野営地区本部を構成し、隊又は団相互の連絡調整をはかる
 - (ハ) 各団とも、大会本部及び野営本部との連絡は、野営地区本部を通じて行う
- (2) 野営地区並びに野営地区本部

- (イ) 野営地を次のとおり区分する

- 第一地区 岡山・御津地区各団
- 第二地区 西大寺・和気・赤磐・地区各団
- 第三地区 児島・玉野地区各団
- 第四地区 倉敷・都窪・吉備・高梁・新見地区各団
- 第五地区 玉島・浅口地区各団
- 第六地区 笠岡・井原地区各団
- 第七地区 美作地区各団
- 第八地区 ガールスカウト岡山県支部各団

各地区は関係する団（隊）の協議により、野営地区本部を組織する

- (ロ) 野営地区本部の組織は、大会本部の役割と関連をもたせるよう配慮する
- (3) 野営地の割当て
 - (イ) 野営本部は、各地区毎に野営地割当てを行う
 - (ロ) 各団（隊）に対する地区割当ては、野営地区本部の責任において行う
 - (ハ) 野営地区本部の位置は野営本部において指定する
 - (ニ) 野営地の諸施設の使用規定は別に定める
- (4) 大会本部並びに大会役員
 - 大 会 長 加藤武徳連盟長
 - 副大会長 松田 基・篠井孝夫副連盟長

野 営 長 金光国勢理事長

副野営長 富張 昇・阿部 了・日下孝二副理事長

大会本部長 金光整雄事務局長

総務部・施設資材部・野営行事部・健康安全部・配給部を設ける。

各部に部長1名，部長補佐2名，部員をおく。

(イ) 総 務 部

- 1 大会事務，大会組織を主管
- 2 予算，資金，会計事務の主管
- 3 通信，郵便，売店，需品等の円滑運営の主管
- 4 協賛団体，宣伝，報道等関係機関との連絡調整
- 5 参加者の確認と掌握
- 6 来賓，来訪者，参加者等の案内など
- 7 その他各部に属せざること

(ロ) 施設資材部

- 1 大会場並びに諸設備の設定と管理及び営繕
- 2 資材の調達準備と配分並びに管理
- 3 大会場全体配置計画にともなう総合野営地割の管理
- 4 その他

(ハ) 野営行事部

- 1 大会場全体配置計画にともなう野営地割の指導実施
- 2 キャンプ管理，スカウティング管理の監察，指導，助言
- 3 プログラムの徹底と，その完全進行を主導
- 4 プログラムにともなう諸行事の主導
- 5 教材の調達準備と配分並びに管理
- 6 その他

(ニ) 健康安全部

- 1 大会場内の健康安全計画の推進とその管理
- 2 保健所，関係医療機関等との連絡調整
- 3 救護対策の実施運営，救護施設の管理等の主導
- 4 健康調査
- 5 その他

(ホ) 配 給 部

- 1 食糧計画にともなう諸物資の調達と配給
- 2 燃料その他野営物資の調達と配給
- 3 配給組織の確立と監督

4 その他

以上 5 部は実施項目について各部間の連絡調整をはかり徹底を期する

(5) 野営本部組織

大会プログラムを統括する，なお各役職名は別に示す

野営本部長 1 名

地 区 8 地区をもうける，各地区に地区本部長，地区本部付をもうける

(6) 地区代表者会議

- 1 参加団代表者，地区及び大会本部役員をもって構成する
- 2 大会実施計画のすべてを確認し実行する
- 3 この会議は，毎日定例的に大会本部長及び野営本部長が招集する

9 設 営 計 画

(1) 野 営 地

(2) 野営場施設

(イ) 野外劇場，中央広場，国旗掲揚ポール

(ロ) 本部設備 各種通信設備，電気照明設備

本部設備は，本部地区に集約をする

通信設備は蒜山ロッジに電話 1，郵便函 1 を借用，準備する

各地区に安全のため電気照明をする

(ハ) 救護所及び患者収容所

救護班によって治療をする

なお外科的手術を要する場合は指定の病院に入院する

(ニ) 物 資

配給所，一般食堂，売店，倉庫，需品部

(ホ) 便 所

野営地区周辺に数カ所を設置し，その管理は地区本部において行う

(ヘ) 水道，洗場

新鮮な水を水道管により各所に配水をし，給水所をもうける

10 服装及び携行品

(1) 服 装

(イ) 制服の右ポケットに参加章を縫いつける

(ロ) スカウトとして定められた記章，標章を正しくつける

(ハ) 半袖，半ズボンを原則とする

(2) 主食，その他

期間の必要量を持参する，食糧品は，献立（大会本部にて指示）にともない本部配給とする（配給計画を参照）

(3) 野営用具

野営に必要な用具（装備、天幕、工具、炊事具等）を個人装備、団隊、又は班用具として準備する

(イ) 山岳気象のため相当の雨量も予想されるので、ビニール製敷物等を準備して設営の万全を期する

(ロ) 食卓用資材の分解携行を考慮されたい、夜間は冷えるので下着の準備を忘れないこと

(ハ) 大会のため、団独自の装飾を準備することが望ましい

(4) 国旗、隊旗

(イ) 国旗は、隊旗とほぼ同じ大きさのもので旗竿の長さは2.1mとする

(ロ) 隊旗は常に集団行動の時に保持する

(5) その他

(イ) 登録証

(ロ) 参加申込書の控と健康診断記録書

(ハ) スカウトとしての救急薬品（大会本部としても準備はする）

(ニ) 伝染病予防のため特別服用薬品、エマホルム錠を、出発前に服用すること（エマホルム錠は「参加承認書」等と共に、県連事務局より送付する）

(ホ) 荒天準備として一食ぐらいの非常食を携行することが望ましい

11 配 給 計 画

(1) 物資配給所と物資配給組織

(イ) 規定野営物資は、配給所をもうけて30人を単位として各地区に一括配給する

(ロ) 配給を円滑に行うため野営地区本部は、配給係を置く

(ハ) 各野営地区本部の配給係は、各団別に末端配給の要員を確保し、綿密に計画し準備する

(2) 食糧品

(イ) 配給は8月8日夕食から11日昼食までの9食分の副食物とする

(ロ) 主食の米麦は各自持参のこと

(ハ) 副食物品は基本献立に従って配給をする

(ニ) 配給期間前後の食糧は計画的に持参するか、現地で購入する

(ホ) 献立による配給品目は、その都度示す

(3) 燃 料

(イ) 大会期間中の燃料を配給する

(ロ) 燃料は節約使用し、炊事の方法、カマドの工夫を考える

(4) 敷 物

むしろを3人に2枚の割合で配給する

(5) その他

炊事場、便所の消毒用石灰等を配給する

12 通 信

(1) 郵便、電報

郵便物は大会期間中、次のあて名で配達される

岡山県真庭郡八束村中蒜山

蒜山ロッジ気付

ボーイスカウト野営大会本部内

~~~~~ 第 \_\_\_\_\_ 団 \_\_\_\_\_ 隊 氏 名 ~~~~~

### (2) 電 話

大会期間中の電話は蒜山ロッジの上長田 104 番を借用使用する

### (3) 場内放送設備

指令を周知徹底するため、放送塔をもうけて、それを利用する

## 13 管 理 計 画

### (1) スカウト及び指導者

- (イ) 常に、スカウト精神をもって、規定されたことを進んで守り、りっぱな態度で行動する
- (ロ) 参加スカウト及び指導者は、大会本部、野営本部、地区本部の組織下にはいり、関係者の指導を求める
- (ハ) 野営場からの出入の際は、大会の秩序を保ち、事故を未然に防ぐため、大会本部、野営本部に届け出て行く
- (ニ) 大会本部各部の管理計画は別に定め、それに従うが、特に健康管理については、参加団として周到な計画を立案する
- (ホ) 外科的手術等を要する一般病院患者の治療は、初診料のみ本部負担とする

### (2) 来 訪 者

- (イ) 一般参観者並びに各種青少年団体の多数来場を心から歓迎する
- (ロ) 一般参観者の野営場内への入場は原則として毎日 8 時から 21 時までとする  
来訪者のために食堂設備をもうける

### (3) 行商人の入場立売は厳禁する

### (4) 荒天収容施設

荒天によりキャンプ継続実施困難な場合は、別に収容場所をもうける

## 14 参加団の準備と訓練

- (1) 隊の指導者は、大会実施要項を熟読してスカウトに発表するとともに団委員会に相談する
- (2) 団委員会を中心に育成会あるいは、父兄会を開き概要を説明する
- (3) 参加を決定したときは、第 1 段階として次のことをする
  - (イ) 初級スカウトの 2 級進級訓練実施
  - (ロ) 参加費の調達をはじめる
  - (ハ) キャンプ用具の整備を図る

(ニ) 大会プログラムにより参加特別訓練を開始する

(ホ) 各人の予備健康診断をする

(4) 第2段階として次のことをする

(イ) 保護者から正式参加許可をうける

(ロ) 団指導者は参加に関する予備打ち合わせをし、基本方針を決定する、輸送、観光、プログラム、派遣団組織等

(ハ) 各団の基本方針に基づき、輸送計画を具体的に決定する

(ニ) 参加者から参加費を集める、参加申込書2通を作成する

(ホ) 岡山連盟事務局あてに申込書1通と参加費をそえて7月1日までに申込むこと、各団で派遣団組織の出来ないところは、その理由を付して申し込むこと

(ヘ) 大会本部は、正式申込の受理次第「参加承認書」と「健康診断記録」「参加章」その他を各参加団あてに送付する

(ト) 参加団は参加訓練を継続するとともに、団、隊及び班の携行品の点検、荷物造り、役割分担等をする

(チ) 各地区は、営火出しものを7月1日までに県連事務局あて申し込むこと

参加申込地区名

出し物名

所要時間

演出責任者氏名

(5) 団標示プラカードを準備する

横 80 cm, 縦 20 cm, 所持棒 60 cm, 団名を記入する

## 15 そ の 他

ガールスカウトの参加については、岡山県支部の指示にしたがうこと

# プログラム

全体の日程表

|       | 8 日 (金) | 9 日 (土)      | 10 日 (日)     | 11 日 (月)                                                                                         |
|-------|---------|--------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5.30  |         | 当番起床         | 当番起床         | 当番起床                                                                                             |
| 6.00  |         | 全員起床         | 全員起床         | 全員起床                                                                                             |
| 7.00  |         | 朝食<br>(点検朝礼) | 朝食<br>(点検朝礼) | 朝食<br>(点検朝礼)                                                                                     |
| 8.00  |         | 国旗掲揚         | 国旗掲揚         | 国旗掲揚                                                                                             |
| 9.00  |         |              | 日曜儀礼         | 撤営準備                                                                                             |
| 10.00 | 受付      | 自由参加行事       | ラリー          | 閉会式                                                                                              |
| 11.30 | 昼食      | 昼食           | 昼食           | 撤営散                                                                                              |
| 13.00 | 設営      |              | 式典           | (注)<br>◎自由参加行事<br>○クロスカントリ<br>○登山<br>○1泊ハイク<br>○バイオニアリング<br>○集団踊り<br>○ワイドゲーム<br>◎スカウトラリー<br>◎展示会 |
| 14.00 | 指導者会議   | 自由参加行事       | ラリー          |                                                                                                  |
| 17.00 | 夕食      | 夕食           | 夕食           |                                                                                                  |
|       |         | 国旗降納         | 国旗降納         |                                                                                                  |
| 19.00 | 開会式     |              |              |                                                                                                  |
| 20.00 | スカウトの集い | 集団踊り         | 大営火          |                                                                                                  |
| 21.00 | 地区代表者会議 | 地区代表者会議      | 地区代表者会議      |                                                                                                  |
| 22.00 | 就寝灯消    | 就寝灯消         | 就寝灯消         |                                                                                                  |

岡山連盟結成20周年記念野営大会参加状況（昭和44. 8. 8 現在）

| 国 名   | 人 数 | 摘 要 | 国 名     | 人 数 | 摘 要                  |
|-------|-----|-----|---------|-----|----------------------|
| 岡 山16 | 7   |     | 笠 岡 3   | 18  |                      |
| 岡 山 4 | 10  |     | 岡 山 3   | 11  |                      |
| 御 津 1 | 21  |     | 玉 島 2   | 20  |                      |
| 久 米 1 | 23  |     | 岡 山12   | 4   |                      |
| 吉 備 1 | 12  |     | 岡 山11   | 11  |                      |
| 児 島 1 | 24  |     | 岡 山 8   | 21  |                      |
| 児 島 2 | 15  |     | 津 山 1   | 21  |                      |
| 倉 敷11 | 14  |     | 倉 敷 5   | 13  |                      |
| 赤 磐 2 | 18  |     | 玉 島 1   | 7   |                      |
| 西大寺 4 | 13  |     | 御 津 2   | 20  |                      |
| 岡 山13 | 33  |     | 玉 野 1   | 36  |                      |
| 阿 哲 1 | 19  |     | 高 梁 1   | 33  |                      |
| 新 見 1 | 26  |     | ガールスカウト | 84  |                      |
| 笠 岡 2 | 28  |     | 本 部     | 20  |                      |
| 英 田 1 | 31  |     |         |     |                      |
| 西大寺 1 | 15  |     | 計       | 817 |                      |
| 真 庭 1 | 36  |     | 児 島     |     |                      |
| 和 気 5 | 13  |     | カブスカウト  | 31  | 8月9日と<br>10日のみ<br>参加 |
| 都 窪 2 | 21  |     | 西大寺     | 16  |                      |
| 岡 山10 | 20  |     | カブスカウト  | 69  |                      |
| 浅 口 1 | 15  |     | ガールスカウト |     |                      |
| 浅 口 2 | 45  |     | 計       | 69  |                      |
| 笠 岡 1 | 22  |     | 参加総合計   | 886 |                      |

日本ボーイスカウト岡山連盟結成20周年記念  
岡山県ボーイスカウト野営大会決算書

昭和44年 9 月20日

| 収 入 額          | 支 出 額          | 差引残額   |
|----------------|----------------|--------|
| 円<br>2,405,244 | 円<br>2,405,244 | 円<br>0 |

収 入 の 部

| 項 目       | 予 算 額          | 増 減          | 決 算 額          | 摘 要           |
|-----------|----------------|--------------|----------------|---------------|
| 参 加 費     | 円<br>1,200,000 | 円<br>52,500  | 円<br>1,252,500 | 835人×@1,500円  |
| 県 費 分 担 金 | 200,000        | △<br>100,000 | 100,000        | 共催分担金         |
| 寄付金その他    | 950,000        | 102,744      | 1,052,744      | 寄付金, 広告料, その他 |
|           | 円<br>2,350,000 | 円<br>55,244  | 円<br>2,405,244 |               |

支 出 の 部

| 項 目   | 予 算 額          | 増 減          | 決 算 額          | 摘 要                                                                  |
|-------|----------------|--------------|----------------|----------------------------------------------------------------------|
| 準 備 費 | 円<br>200,000   | △ 円<br>5,210 | 円<br>194,790   | 借上料 45,900円<br>旅費、会議費 50,550円<br>要項、その他 98,340円                      |
| 運 営 費 | 320,000        | 8,887        | 328,887        | 需用費 197,237円<br>運営要項印刷 10,500円<br>借上料 66,500円<br>燃料、その他 54,650円      |
| 施 設 費 | 530,000        | 155,470      | 685,470        | テント 375,500円<br>一般施設 165,000円<br>給水、電気施設 132,640円<br>ボール、その他 12,330円 |
| 資 材 費 | 250,000        | △ 77,055     | 172,945        | 材木、竹 103,620円<br>ロープ 12,500円<br>縄、敷わら、その他 56,825円                    |
| 食 糧 費 | 827,000        | 69,992       | 896,992        | 食料代 896,992円                                                         |
| 行 事 費 | 100,000        | 16,160       | 116,160        | 記念品及表彰状                                                              |
| 予 備 費 | 123,000        | △ 113,000    | 10,000         | 救急処置及見舞金                                                             |
| 計     | 円<br>2,350,000 | 円<br>55,244  | 円<br>2,405,244 |                                                                      |

参加スカウトは、3泊4日間各種自由参加行事に挑戦し、また蒜山登山、鏡ヶ鳴方面への1泊ハイキングにも多数のスカウトが参加して大きな成果をおさめた。特に野営管理も徹底していたので、青年期を迎えたスカウト活動にふさわしく、日頃の訓練の成果をじゅうぶんに発揮し、相互の友情を深め、スカウト運動を一層充実させ、県下青少年の健全育成を促進するうえからも完全に目的を達成することができた。

なお、この大会の大営火の前に、永年スカウト運動に貢献した指導者と優秀スカウト合わせて43名の表彰式を行った。またこの大会を記念するとともに塩釜蒜山ロッジの野営場に対して感謝の気持ちを表わすため、付近からスカウトが石を集めてきて、期間中にケルン第1号を建設した。閉会式の後でこのケルンの除幕式を、松田県連盟副連盟長出席のもとに挙行している。



記念のケルンの前に並ぶ大会役員



## 岡山連盟結成20周年記念式典

昭和44年11月8日に岡山市民会館において、結成20周年の記念式典を行った。この式典において岡山連盟の維持発展のために貢献された方々128名と48団体をそれぞれ表彰し、または感謝状の贈呈を行っている。なお、この記念式典のあと同じ会場で、指導者養成委員会組織拡張委員会の合同の会議を開き、組織拡張について協議した。

## 昭和45年度

### 万国博覧会に出演

昭和45年においては、大阪において万国博覧会が開催され、これに見学を兼ねて出演することになった。3月28日には、近県のスカウト代表3,800名が集まり博覧会場のお祭り広場において「スカウトの集い」を開催し、岡山連盟からは代表30名を選抜して、石井集治地区コミッショナーを団長として派遣した。この万国博覧会出演岡山派遣団は3月28日にお祭広場での「スカウトの集い」に出たあと大阪市内のスカウトの家庭に2泊分宿して帰岡した。

### 第5回日本ジャンボリーへの参加



ジャンボリーマーク

第5回日本ジャンボリーは、4年ごとに開催されている日本ボーイスカウトの祭典として、スカウトの友情を促進し、士気をたかめスカウト運動躍進の契機とするとともに、第13回世界ジャンボリーに備えるために開催した。そのためテーマは「そなえよつねに」とし、また翌年の第13回世界ジャンボリーのテーマである「相互理解」を指導精神として実施している。

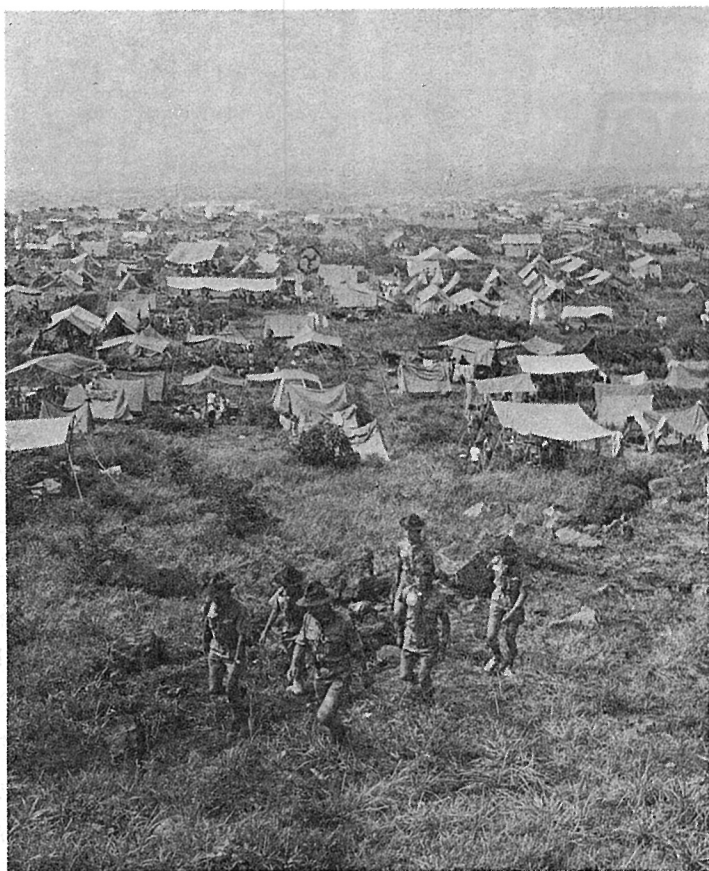
開催期間は昭和45年8月6日から10までの5日間で、静岡県富士宮市朝霧高原を会場とした。この朝霧高原は、戦時中は陸軍少年戦車学校の訓練場として使用されていたところで、戦後民間に払下げており、今までのジャンボリーと違って自衛隊の演習場ではなく民有地を借り上げて会場とした。この地域は富士山麓の高原であるため夏でも涼しく、野営には適したところであるが、ただ天候の変化が激しく、しかも急変することが多い。また、名まえの通り霧の多い所で、朝のみでなく夕霧も濃くたちこめることが多く、全く1m先が見えなくなることがある。この第5回日本ジャンボリーにおいても、8月6日夕刻から開始された開会式では、夕霧が濃くたちこめて全く視界が見えなくなり、何が行われているのかわからず、音楽と放送で流される祝辞などの話声が聞こえるのみで、目に見えるのはサーチライトでぼんやり照らされた濃い霧の流れのみであった。開会式の終了後、自分の野営地がわからなくなり相当のスカウトが会場の中をさまよったようである。

参加スカウト総数は、32,653名で参加国は13カ国にのぼり、岡山連盟からは360名のスカウトと指導者が派遣団を編成して参加した。金光整雄県連盟理事長が団長となり、西田全司総隊長

の指揮のもと、岡山県庁において結団式を行って、8月5日午後両備バス6台に分乗、トラック1台に装具隊備品を満載して出発した。

8月6日正午会場に到着し、第2野営区（中国四国地区）でさっそく設営にとりかかった。6日の夕刻から濃い霧の中で開会式が行われ、第2日目の7日からジャンボリー友情ゲームと各種選択プログラムが行われた。第3日目は午後皇太子同妃両殿下をお迎えしてのジャンボリー大集会が晴天にめぐまれて華やかに開催された。ただこの大集会で非常に印象に残っているのは、久留島総長（ジャンボリー野営長）が足どりもおぼつかなく小林芳夫理事長に支えられて出席されたことである。久留島総長はこのジャンボリー大集会の45日後、9月22日に逝去されている。

8月10日の夕刻から閉会式が行われた。閉会式終了後夜空に打ち上げられる花火や、見事な色とりどりの仕掛花火を眺めながら、装具や備品をトラックに積み込み、両備バスに分乗して、22時ジャンボリー会場を出発し帰路についた。なお、岡山派遣団はジャンボリー開催期間中に富士五湖をはじめ箱根方面の観光を、1日間行っている。岡山に帰着したのは8月11日の正午であった。岡山県庁前で解団式を行い解散している。

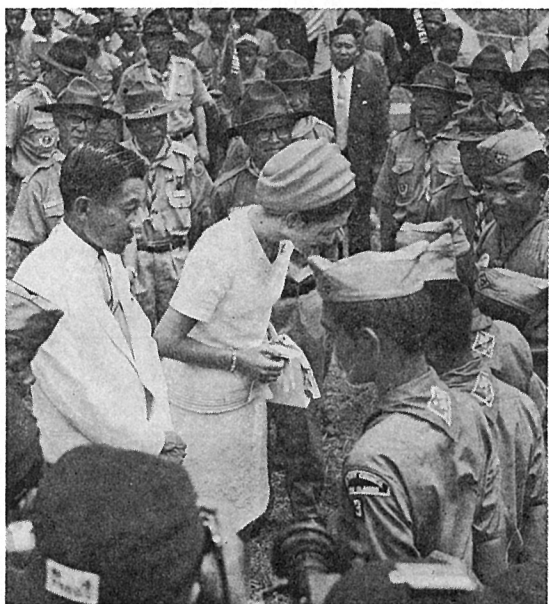


ジャンボリー会場

この第5回日本ジャンボリーは、大会長である石坂泰三日本連盟総裁の開会式の挨拶の中のことばにもあるように、

「この第5回日本ジャンボリーは、明年この場所で世界120カ国から集い合うスカウトが、野営生活を共にして国際理解を深め、友情をあたためあう第13回世界ジャンボリーの予備訓練ともなるものである。今ここに集う3万人のスカウトたちは朝に夕に富士の霊峰を仰ぎながら訓練に励み、共同生活を営むことにより、生涯忘れることのできない印象と貴重な体験を得られることであろう。『そなえよつねに』をモットーに5日間の本大会が内外スカウトの友好親善と、青少年の訓練の場として十分その目的を達せられるよう祈ってやまない。」

第13回世界ジャンボリーの準備と予備訓練という意味をもって開かれた第5回日本ジャンボリーに参加した岡山派遣団は、その目的をじゅうぶんに達成して帰岡した。



皇太子同妃両殿下



相互理解と友情

|                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |      |      |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|-----|-----|----|------|------|---|-----|---|------|----|-------|---|------|----|
| 西大寺・和気・赤磐地区<br>スカウト21名 指導者6名<br>西大寺第1団——6名<br>西大寺第4団——7名<br>和気第5団——3名<br>赤磐第2団——5名                                                                                                                           | 玉島・浅口地区<br>スカウト52名 指導者7名<br>玉島第1団——3名<br>" 第2団——11名<br>浅口第1団——10名<br>" 第2団——25名<br>" 第3団——3名                                                                                                                                                                                             |      |      |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| 岡山・御津地区<br>スカウト78名 指導者10名<br>岡山第3団——5名<br>" 第4団——14名<br>" 第8団——5名<br>" 第10団——7名<br>" 第11団——6名<br>" 第12団——3名<br>" 第13団——10名<br>" 第14団——6名<br>" 第15団——6名<br>" 第16団——3名<br>" 第17団——2名<br>御津第1団——4名<br>" 第2団——7名 | 井原・笠岡地区<br>スカウト13名 指導者1名<br>笠岡第1団——4名<br>" 第2団——5名<br>" 第3団——4名                                                                                                                                                                                                                          |      |      |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
|                                                                                                                                                                                                              | 美作地区 スカウト50名 指導者7名<br>津山第1団——17名<br>久米第1団——4名<br>真庭第1団——14名<br>英田第1団——8名<br>阿哲第1団——7名                                                                                                                                                                                                    |      |      |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| 玉野・児島地区<br>スカウト48名 指導者7名<br>玉野第1団——13名<br>児島第1団——17名<br>" 第2団——9名<br>" 第4団——9名                                                                                                                               | <table> <tr> <td>スカウト</td> <td>315名</td> </tr> <tr> <td>指導者</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>360名</td> </tr> </table>                                                                                                                                                         | スカウト | 315名 | 指導者 | 45名 | 計  | 360名 |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| スカウト                                                                                                                                                                                                         | 315名                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |      |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| 指導者                                                                                                                                                                                                          | 45名                                                                                                                                                                                                                                                                                      |      |      |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| 計                                                                                                                                                                                                            | 360名                                                                                                                                                                                                                                                                                     |      |      |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| 倉敷・高梁・新見・吉備・都窪地区<br>スカウト53名 指導者7名<br>倉敷第5団——7名<br>" 第7団——4名<br>" 第11団——4名<br>高梁第1団——14名<br>新見第1団——6名<br>都窪第2団——6名<br>吉備第1団——4名<br>玉島第3団——8名                                                                  | 派遣団編成<br>1隊は <table border="1"> <tr> <td>隊長</td> <td>1</td> <td>隊付</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>副長</td> <td>2</td> <td>上級班長</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>副長補</td> <td>2</td> <td>スカウト</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>成人指導者</td> <td>5</td> <td>スカウト</td> <td>35</td> </tr> </table> | 隊長   | 1    | 隊付  | 2   | 副長 | 2    | 上級班長 | 1 | 副長補 | 2 | スカウト | 32 | 成人指導者 | 5 | スカウト | 35 |
| 隊長                                                                                                                                                                                                           | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 隊付   | 2    |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| 副長                                                                                                                                                                                                           | 2                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 上級班長 | 1    |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| 副長補                                                                                                                                                                                                          | 2                                                                                                                                                                                                                                                                                        | スカウト | 32   |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |
| 成人指導者                                                                                                                                                                                                        | 5                                                                                                                                                                                                                                                                                        | スカウト | 35   |     |     |    |      |      |   |     |   |      |    |       |   |      |    |

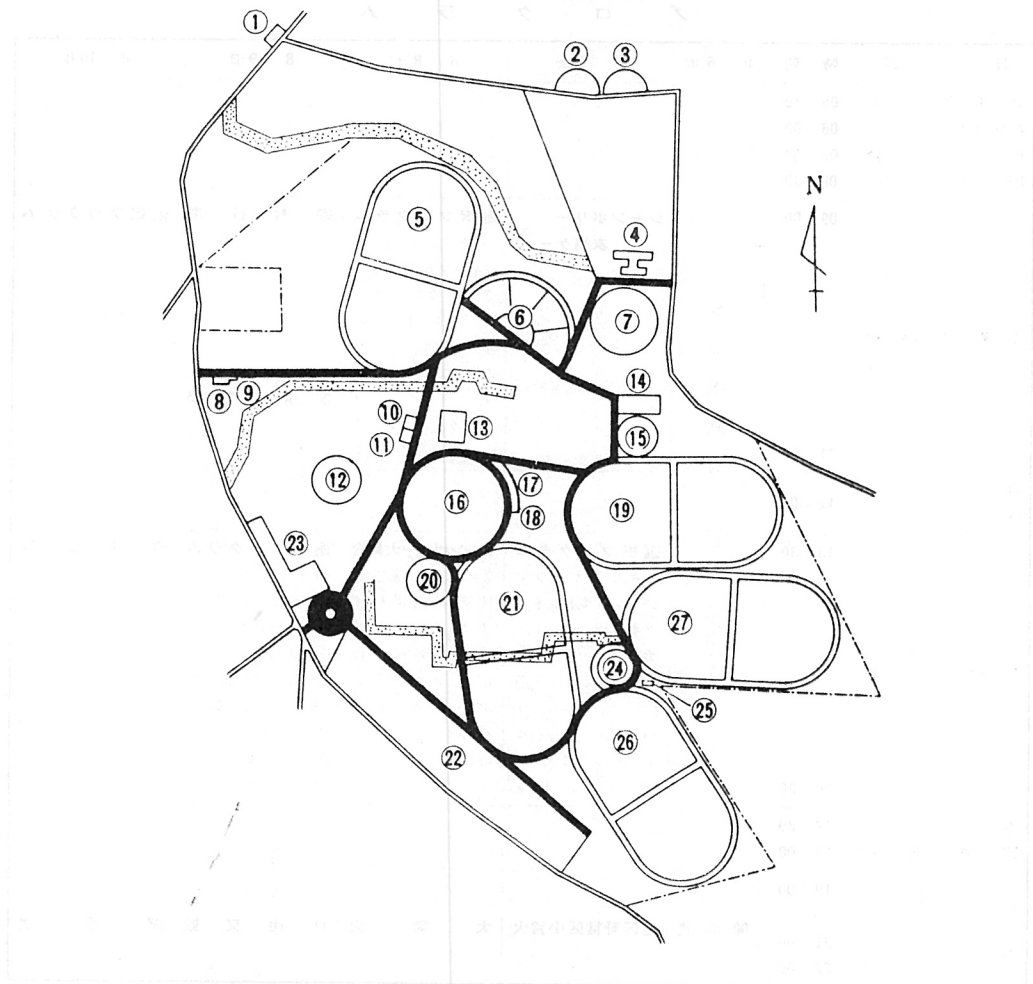
1隊は隊長以下40名で岡山派遣団は9隊編成とする。

プ ロ グ ラ ム

| 日 課                                      | 時 刻                              | 8 / 6 (木)            | 8 / 7 (金)                                                                                         | 8 / 8 (土)                                                                                                | 8 / 9 (日)                                                                                                   | 8 / 10 (月)                       |
|------------------------------------------|----------------------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 炊 事 係 起 床<br>起床ファンファーレ<br>朝 食<br>国 旗 掲 揚 | 05:30<br>06:00<br>07:00<br>08:30 | 参加隊到着<br>(手続および設営完了) |                                                                                                   |                                                                                                          |                                                                                                             |                                  |
| 午 前 の 活 動                                | 09:00<br><br><br><br>11:00       |                      | ジャンボリー<br>友情ゲーム                                                                                   | 選択プログラム<br>バドミントン<br>ジャングルトレイル<br>クロスカントリー<br>トランポリン<br>す も う<br>た こ あ げ<br>魚 つ り<br>ハ イ キ ン グ<br>バレーボール | 宗 教 行 事<br><br><br>友 情 の 訪 問                                                                                | 選択プログラム<br><br>魚 つ り<br>エキスカージョン |
| 昼 休 け 食 い                                | 12:00                            |                      |                                                                                                   |                                                                                                          |                                                                                                             |                                  |
| 午 後 の 活 動                                | 13:30<br><br><br><br>16:30       |                      | 選択プログラム<br>スキル・オ・ラマ<br>ジャングルトレイル<br>クロスカントリー<br>柔 道<br>剣 道<br>魚 つ り<br>バレーボール<br>トランポリン<br>バドミントン | ジャンボリー大集会<br>皇太子殿下ご夫妻ご台臨<br>代表者入場行進<br>スカウト演技<br>部 外 者 演 技<br>婦人マスゲーム<br>ダークダックス<br>バレーバンド               | 選択プログラム<br>スキル・オ・ラマ<br>バドミントン<br>バレーボール<br>トランポリン<br>ジャングルトレイル<br>バンド演奏会<br>クロスカントリー<br>魚つり・お国自慢<br>フォークダンス | 自 由 交 歓                          |
| 夕 食<br>国 旗 降 納                           | 17:30<br>18:00                   |                      |                                                                                                   |                                                                                                          |                                                                                                             |                                  |
| 夜 の 行 事<br>消 灯                           | 19:00<br>21:00<br>22:00          | 開 会 式                | 地区野営区小営火                                                                                          | 大 営 火                                                                                                    | 自 由 交 歓                                                                                                     | 閉 会 式                            |

○参加人員 14 野 営 地 区 30,674名  
(スカウト) ジャンボリー本部 1,082名  
(リーダー共) 外国派遣団等 897名  
合 計 32,653名

# ジャンボリー会場図



- |             |              |              |
|-------------|--------------|--------------|
| ① 有料道路料金徴集所 | ⑪ 救護所        | ㉑ P. R センター  |
| ② 自衛隊テント    | ⑫ ヘリポート      | ㉒ A キャンプサイト  |
| ③ 警察テント     | ⑬ 本部         | ㉓ 駐車場A       |
| ④ ゲストハウス    | ⑭ A 競技場      | ㉔ 駐車場B       |
| ⑤ E キャンプサイト | ⑮ 小集会場       | ㉕ B 競技場      |
| ⑥ 大集会場      | ⑯ 中央広場       | ㉖ ジャンボリーショップ |
| ⑦ 本部員テント    | ⑰ 一般食堂       | ㉗ B キャンプサイト  |
| ⑧ 物資集積場     | ⑱ ジャンボリーショップ | ㉘ C キャンプサイト  |
| ⑨ 臨時バスパーキング | ⑲ D キャンプサイト  |              |
| ⑩ 銀行        |              |              |

防風林

面積 320万平方m

## 収 入 の 部

| 摘 要       | 金 額       |          |
|-----------|-----------|----------|
| 県よりの交付金   | 860,000   |          |
| 市よりの交付金   | 93,000    |          |
| 参 加 受 入 費 | 2,992,800 | 参加費並に交通費 |
| 計         | 3,945,800 |          |

## 支 出 の 部

| 摘 要       | 金 額       |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 参 加 費     | 885,000   | 日本連盟      |
| 交 通 費     | 2,164,050 | 交通公社      |
| バス・トラック他  | 987,539   | 諸費を含む     |
| 計         | 4,036,589 |           |
| 差 引 不 足 額 | △ 90,789  | 経常派遣費にて負担 |

## 三木顕彰会がボーイスカウト岡山連盟を表彰

岡山県知事三木行治がフィリッピンのマグサイサイ賞（東洋のノーベル賞といわれる）を受賞されたのを記念して三木知事死去後昭和40年に三木記念賞を制定し毎年顕著な功績のあった団体や個人に贈られていた。この三木記念賞を昭和45年度日本ボーイスカウト岡山連盟が受賞した。その受賞式が8月31日に岡山県庁9階の講堂で行われ、岡山連盟から金光整雄理事長が出席して受賞している。



三 木 記 念 賞 の 受 賞



## 日本連盟久留島総長の逝去

日本連盟総長久留島秀三郎は、第5回日本ジャンボリーに野営長として参加されていたが、その時から体の調子は余り良くなかったようである。ジャンボリー終了後、9月22日に逝去された。第13回世界ジャンボリーの日本誘致に努力されたにもかかわらずその開幕を見ないままに、またボーイスカウト会館を東京都三鷹市に建設することに尽力され完成したものの、その竣工式を6日後にひかえていながら他界されたことはかえすがえすも残念なことであった。享年82歳。

### 資料

### 日本ボーイスカウト運動史抜粋

“老少年”久留島秀三郎の死 第5回日本ジャンボリーが終わった翌月、ボーイスカウト日本連盟はまたまた貴重な人を失った。総長久留島秀三郎の死である。1970（昭45）年9月22日午後7時15分、久留島は、目前に迫った第13回世界ジャンボリーの成功を祈りながら昇天したのである。享年82歳。

久留島は1888（明21）年9月11日、京都に生まれた。そして京都二中、第三高等学校を経て、1914（大3）年7月、九州帝国大学工学部採鉱学科を卒業した。のち農商務省の農林技師となり、1920（大9）年10月、鞍山鉄鉱振興有限公司採鉱総局長に就任した。在満時代は、馬賊にとらわれたり、大孤山（鉱山）の爆発事故に遭遇するなど、新聞紙面をにぎわせるような事故に何回も出会っている。1956（昭31）年、「鉱物資源の完全活用に関する工業的研究」で工学博士となる。実兄の故中野忠八は日本のボーイスカウト運動創始者の1人であり、また岳父の故久留島武彦も日本のボーイスカウト運動の指導的立場にあった人で、いってみれば日本スカウト界の名門である。

「昭和24年、日本連盟の再建時代、実兄の中野忠八は、三島さん（通陽）からの懇請に応じて京都を引払って東京に出馬する決心をした。そのとたん急病でこの世を去った。ぼくは、兄の遺志を継いでこの道にはいったのである……」と、日本ボーイスカウトの再建に乗出した。

老齢をかえりみず、よく海外旅行をした。そして、北米、オーストラリアなどの旅行記を出版した。『珈琲を啜りながら』『バルカンの赤い星ユーゴスラビア』『老少年濠州に使う』『世界とところどころ』などがある。それは、バスや飛行機の空からの鋭い観察で、スケッチ、写真、地図を入れたりっぱな作品だった。この数多い海外旅行が、日本スカウティングの世界的水準を上げた事実もみのがせない。日の丸の旗を掲げて、あるときは、単身外国のスカウト行事に参加し、“日本の久留島”の名は世界中のスカウト仲間知られるようになった。そして、ついに念願の第13回世界ジャンボリー開催をわが国にもたらした。とにかく、多忙なからだにもかかわらず、ボーイスカウトのために驚くほどエネルギーに働いた、心やさしい、スケールの大きな“老少年”であった。

葬儀および告別式は、日本連盟葬により、1970年9月27日、東京・築地本願寺で行われた。その死を悼み、全国および遠く海外から8,000人の人が集まり、荘厳かつ盛大であった。国内・国外からは1,043通に及ぶ弔電が寄せられた。なお、多年にわたる社会教育、とくにボーイスカウト運動につくされた功績により従3位勲1等瑞宝章が追贈された。

## ボーイスカウト会館の竣工式

ボーイスカウトの年来の願いであり、全国のボーイスカウトが小遣いをためて建設基金として僅かずつでも寄付していた、ボーイスカウト会館が完成し、昭和46年8月28日から日本連盟事務局は移転して業務を開始していた。そして9月28日に竣工式を行っている。

場所 東京都三鷹市大沢四丁目11番10号 〒181 TEL 三鷹 0422 (31) 5161 (代)

## 昭和46年度

### ボーイスカウト岡山連盟が維持財団を設立

昭和41年8月に岡山県日本原で、第4回日本ジャンボリーが開催される以前から、県連盟の財政基盤を確立するため、維持財団の設立を計画していた。それが第4回日本ジャンボリーの開催に伴い、岡山県準備委員会で行った第4回日本ジャンボリーの募金が予定以上に収納できたので、その残額のうち200万円がボーイスカウト岡山連盟運営基金として渡された。この基金を積み立てていたが、昭和45年8月31日に三木記念賞を受賞し、その助成金も入ったので、これを機会に募金を行い維持財団を設立することになった。

昭和45年9月17日に岡山連盟維持財団設立について協議し、同年11月17日には岡山県生命保険協会からも助成金が贈呈された。同年12月7日には日本連盟根岸事務局長が来岡して、岡山連盟財団設立について協議している。

昭和46年3月23日に財団法人岡山連盟発起人会を、岡山市青江ニュー三好野で開催した。また、昭和46年5月28日に岡山県青少年健全育成県民会議からボーイスカウト岡山連盟が表彰された。この間募金額も500万円に達したので、所定の手続きを完了し、昭和46年6月18日に財団法人ボーイスカウト岡山連盟として維持財団が設立認可された。そして6月29日に財団法人ボーイスカウト岡山連盟維持財団として登記を完了している。(97ページを参照)

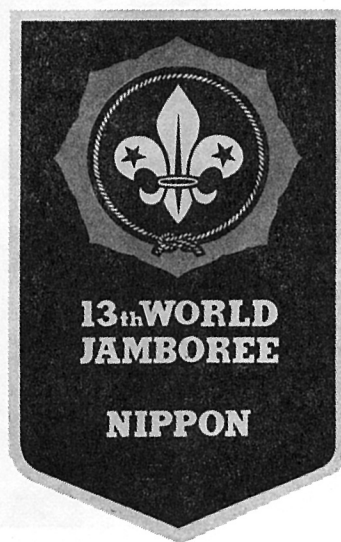
### 岡山連盟第1回語学キャンプの開催

昭和46年5月1日から2日の1泊2日間、金光町胎金寺野営場で、日本に留学中の外国人学生を招いて第1回語学キャンプを開催した。この発案者は、県連盟事務局職員大橋武志(当時倉敷市立西中学校教諭英語担任)で、キャンプ生活を通じて実用英語の訓練を行い、ボーイスカウト技能章の通訳章・世界友情章の取得を容易にするのが目的であった。この企画は、ボーイスカウト・シニアスカウトの興味をよび、参加者も多く大きな成果をおさめた。これ以後、大橋武志が中心になり毎年県連盟の主要なスカウトの進歩のための研修会として実施している。

### 嵐の試練を受けた第13回世界ジャンボリー

第13回世界ジャンボリーは、岡山県日本原で第4回日本ジャンボリーが開催された当時から日本への誘致の話がなされていた。そして、昭和42年2月17日に東京の経団連会館において、第13回世界ジャンボリー招致委員会の設立総会を開き、規約活動方針・収支予算・役員および名誉役員を決定して活動を開始した。

昭和42年3月1日にボーイスカウト世界委員会に対し、石



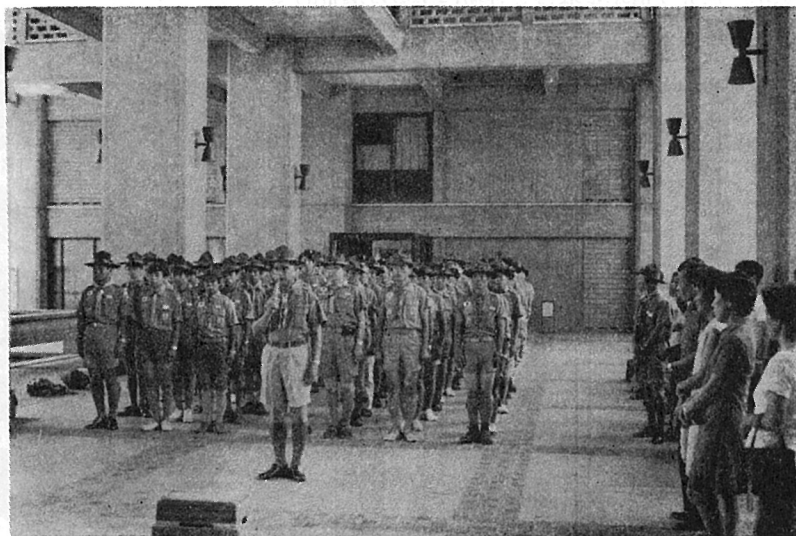
坂泰三ボーイスカウト日本連盟総裁と久留島秀三郎ボーイスカウト日本連盟総長の連名による招請状および佐藤内閣総理大臣の招請メッセージを発送した。これに対して昭和42年8月11日にアメリカのシャトル市で開かれた第21回ボーイスカウト世界会議において、1971年に開かれる第13回世界ジャンボリーでは日本とスウェーデンが開催国として立候補しており投票の結果日本に決定した。

この正式決定に基づき昭和42年9月4日に経団連会館で第13回世界ジャンボリー招致委員会を開き、ジャンボリー会場を静岡県富士宮市朝霧高原と決定し、招致委員会を解散して準備委員会に改組して発足し、いよいよ本格的な準備にとりかかった。

昭和42年12月19日第2回準備委員会の常任委員会において、開催期日を昭和46年8月2日(月)ー10日(火)までとする。参加人員20,000名、ジャンボリーテーマは“*For Understanding*”主催はボーイスカウト日本連盟と静岡県と決定した。そして陸上自衛隊の協力支援を得て施設関係の建設から準備を始めた。

昭和45年春までに施設関係の準備が終了し、第13回世界ジャンボリーの準備状況と運営のリハーサルをも兼ねて、第5回日本ジャンボリーをこの会場で開催した。

第13回世界ジャンボリーの参加費は、US\$50(日本円18,000円)と決定し、岡山連盟も参加人員2個隊80名と本部奉仕46名計126名の参加割当がきまり、岡山派遣団の編成にとりかかった。今回の世界ジャンボリーでは、参加資格が開会式当日14才以上18才未満で1級スカウトであることとなっており、県連盟各団の1級スカウト数に比例して参加数を各団毎に割当てて決定した。1個隊は40名(隊長1名、副長2名、副長補2名、隊付2名、上級班長1名、スカウト32名ー8名の4個班)で2個隊を編成し、岡山派遣団々長、阿部 了県連盟副理事長、総隊長、西田全司県連盟副コミッショナーその他派遣団付指導者数名で派遣団本部を構成した。参加隊は第



岡山県庁における岡山派遣団壮行式

1 参加隊々長藤井勝人，第2 参加隊々長藤原万希雄が指導者として参加することになり，準備訓練を金光町県連盟事務局で行った。

8 月 1 日午後岡山県庁に参加スカウト・指導者は集結して結団式を行ったあと，壮行式を行い西田全司県副コミッショナー輸送指揮によって兩備バス 2 台に分乗し出発した。

8 月 2 日正午会場に到着して，飛鳥地区に設営した。



この写真の撮影は二式二機による。ジャンボリー会場



外国派遣団員と話される皇太子同妃両殿下

# 第13回世界ジャン ボリー記念切手



ジャンボリー会場における地区野営区の編成は次のとおりである。

| 地区野営区 |   |   | 野営本部・地区奉仕隊の担任                                                                                                 |
|-------|---|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 番号    | 名 | 称 |                                                                                                               |
| 1     | 平 | 安 | 近畿ブロック（兵庫を除く）<br>中国ブロック<br>大阪連盟<br>北信越ブロック<br>関東ブロック<br>北海道、東北ブロック<br>東京連盟<br>東海ブロック<br>四国ブロック、兵庫連盟<br>九州ブロック |
| 2     | 飛 | 鳥 |                                                                                                               |
| 3     | 大 | 正 |                                                                                                               |
| 4     | 奈 | 良 |                                                                                                               |
| 5     | 鎌 | 倉 |                                                                                                               |
| 6     | 安 | 土 |                                                                                                               |
| 7     | 江 | 戸 |                                                                                                               |
| 8     | 明 | 治 |                                                                                                               |
| 9     | 室 | 町 |                                                                                                               |
| 10    | 大 | 和 |                                                                                                               |
| 11    | 中 | 央 | （各国派遣団本部を配置する）                                                                                                |

8月2日夕刻からの開会式に始まり、各種選択プログラム、各隊のスカウト交歓と、ジャンボリーテーマである「相互理解」を実践して野営生活を楽しんでいた。ところが、大型台風19号が本土を直撃し8月3日からその余波を受けはじめ3日間富士山麓は大荒れに荒れ狂って横なぐりの暴風雨が続いた。そのため会場の排水の悪い野営区は避難せざるを得なくなった。岡山連盟が野営した飛鳥地区も避難することにし、近くにある建設省建設大学校中央訓練所に避難した。

ここへは飛鳥地区のほか他地区の派遣団も避難してきており、外国派遣団もアメリカ・イギリス・オーストラリア・ナイゼリア・韓国などが避難してきて、ぎりぎり300名しか収容できない施設へ1111名（アメリカ665名・日本297名・イギリス60名・オーストラリア40名・韓国24名・ナイゼリア7名）が入ったために大混乱をきたし、しかも全体を統制する者がいないため、人間の本性が現われエゴイズムの行動が目立った。スカウティングはスカウトひとりびとりを教育し、いつ、いかなる時でも自律的にスカウトの「ちかい」「おきて」に従って行動できるように訓練されていなければならない。それがこの緊急避難という事態になると平素の訓練の成否が如実にあらわれてくる。全体の統制者がいなくとも引率の隊長がいるし、スカウトひとりびとりがスカウト精神にもとづいて行動すれば大混乱もおこらないし、避難場所の建設大学校中央





## 嵐の訓練

訓練所にも迷惑をかけずにすんでいるはずである。この緊急避難に際し、一番スカウトらしい行動をとったのは韓国の派遣団であった。この間の状況については、当時の建設省建設大学校中央訓練所長沢亮太所長が、「ボーイスカウト世界ジャンボリー大会一側面的記録と意見」というレポートで詳細に報告している。このレポートは、われわれボーイスカウト指導者にとっては貴重な頂門の一針である。謙虚にこのレポートの内容について反省をし、スカウト教育の原点に立ち返って、現在のスカウト教育を見直す必要がある。このレポートの最後の個所に、次のように長沢所長は記している。

「……………省略（避難したスカウトの行動や状況が記載されている）…ボーイスカウトの信条も、日本の台風ではいっぺんに吹きとばされるほどのものだったのか。地下でベーデン・パウエル卿が哭いているだろう。野外を活動の場とし、自然に対する人間の挑戦を教育訓練の基本として、『そなえよつねに』というスローガンを掲げているのに。

新聞では、ボーイスカウト日本連盟の幹部連が、この二日間小田原評定を続けただけで、台風に対しても無為無策で責任感がない。すべて県や市に依存し、“ダッコしてもらってアメダマよこせ”の態度である。幹部は、大会場のヒナ壇にあがっただけだと痛烈に批判しているが、その通りの実感を味わったのである。

世界ジャンボリーに出席しているのは、14才から18才の1級スカウトだというのが、それにしては、一夜の台風の前に惨敗しすぎる。一般青少年がひ弱になっているのは、世界の風潮であろうか。

#### ○ 指導者全体の責任命題

もっとも、イギリスの1隊は、ボーイスカウト発祥の国としての名誉にかけて、テントの位置をかえ、溝を掘り、ついに守り通したというし、日本隊でも、地元静岡県の奉仕班のテントでは、最後まで一人も脱落するものがなかったというし、そのほかにも友情の花を咲かせた美談や感動の場も幾多あった。やはり、誇りや使命感がいざという時の精神的支えとなっており、人間として巍然たる態度をとらしめることになるのだろう。貴重な教訓を残したといつてよい。

それにしても、とくに日本人スカウトのだらしなさ、エゴイズムには、いくたの事例をみせつけられてきた。おそらく日本のボーイスカウト連盟は、世界ジャンボリーを日本に誘致することに成功したのを契機として、急激にスカウトの数だけを増大させ、この世界的規模の興業を成功させるのに精一杯だったのではないかという感じを受ける。必然的に、制服、格好だけのボーイスカウトであり、ジャンボリーというショーに出演するためのスカウトであるということである。スカウトがとるいろいろな言葉の端々に、何か出演してやっているんだというタレント気取りが見受けられたのも当然であろう。事実、“日本の夕べ”ビッグパレード、インターナショナルショー、その他交歓の夕べ等々歌ったりおどったり、見せたりのショーでスケジュールはいっぱいである。ショーはショーで結構なことだが、もっと大切なことは、ボーイスカウト創設の精神ではないのか。もっともこのことは、そのバックグラウンドに日本民族総体の問題が存在する。

戦後の日本が、まず食うことから出発し、経済第一主義、物資万能主義でやってきて、“精神”の欠落をなんとも思わなかった風潮の、確実な反映をありありとみせつけられたのである。

また、たとえ“エコノミック、アニマル”といわれようとも、なりふりかまわず、“おのれさえよければよい”という倫理感の欠落した日本人エゴイズムは、どうしたらよいのであろうか。

欧米の諸国民には、一応の倫理のバックボーンをなすものに、キリストの精神と教えがある。戦後の日本民族には、その倫理を支える精神的支柱がなにもないのだ。いわば背骨のないグニャグニャの軟体動物のようなものである。これは民族の主体性を確立する場合、もっとも大切なものではないか。それがないことは、いかに経済だけよくても民族の危機でさえある。とくに日本は、貿易立国、世界の国々と仲よくしていかなければ成り立たない国だから、エゴイズムが一番危険なのである。

さらに、嵐によってさらけ出されたオールドボーイスカウトのいわゆる“だっこしてもらってアメダマよこせ”主義の、他力依存、自主性と責任感のなさ。

しかし、これもボーイスカウトだけを責めることはできないだろう。いろいろ考えてみると、結局、戦後の日本民族は総理をはじめ、一億国民が“自分の国は他国に守ってもらおう、そしてもうけたものは全部自分のものだ。自分が繁栄し、エンジョイすればそれでよいのではないか”という生き方にこの四分の一世紀骨の髄まで徹してきたのだ。おそろしいことである。



ボーイスカウトのみを責めて解決する問題ではない。むしろ指導者層全体の責任命題である。このあたりで、なんとしても世界と平和に生きる日本民族のあるべき姿としての精神の確立を絶叫しなければなるまい。

嵐のジャンボリーはそれを教えたのである。」

この嵐のジャンボリーの教訓は、参加したボーイスカウトや指導者のみならず、すべてのボーイスカウト関係者が深く反省し、スカウト教育に貴重な教訓として取り入れ、特に指導者訓練に反映させた。そのため次の第6回日本ジャンボリー・第7回日本ジャンボリーにおいては、本来のあるべきボーイスカウトの真の姿に立返ってきている。

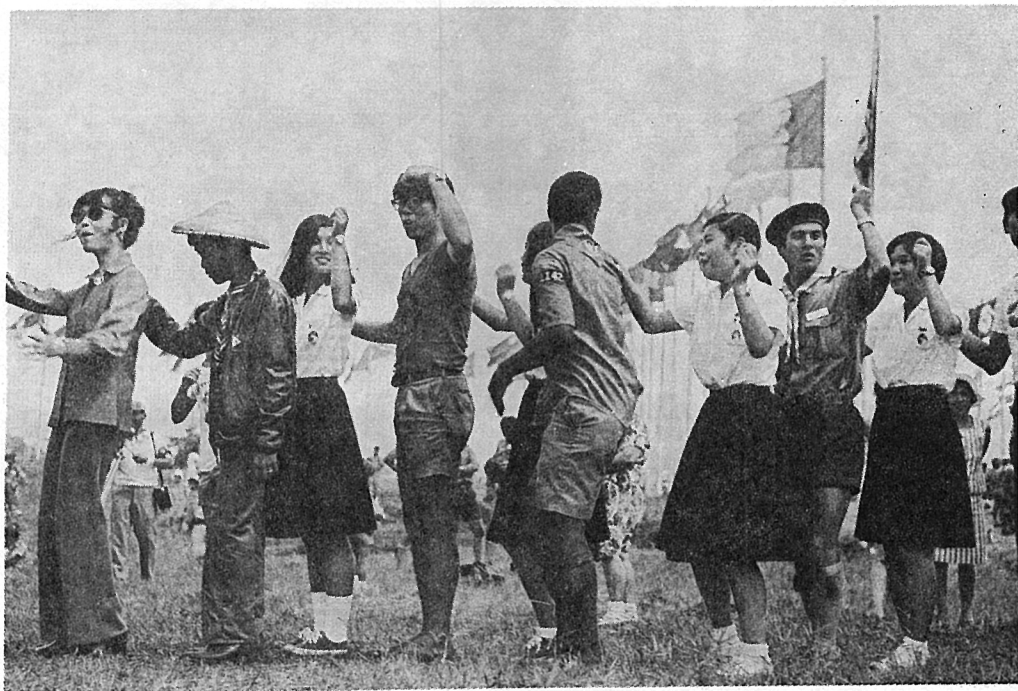
岡山派遣団のスカウトは貴重な嵐の試練と、相互理解に基づく友情とをばぐみ、全日程を元気に終了し、8月10日午後撤営を行い閉会式後両備バス2台に分乗して会場を出発、8月11日正午頃に岡山県庁に到着、解団式を行って解散している。



ワイドゲームを仲良く行う各国派遣団スカウトたち



外国派遣団のスカウトたち



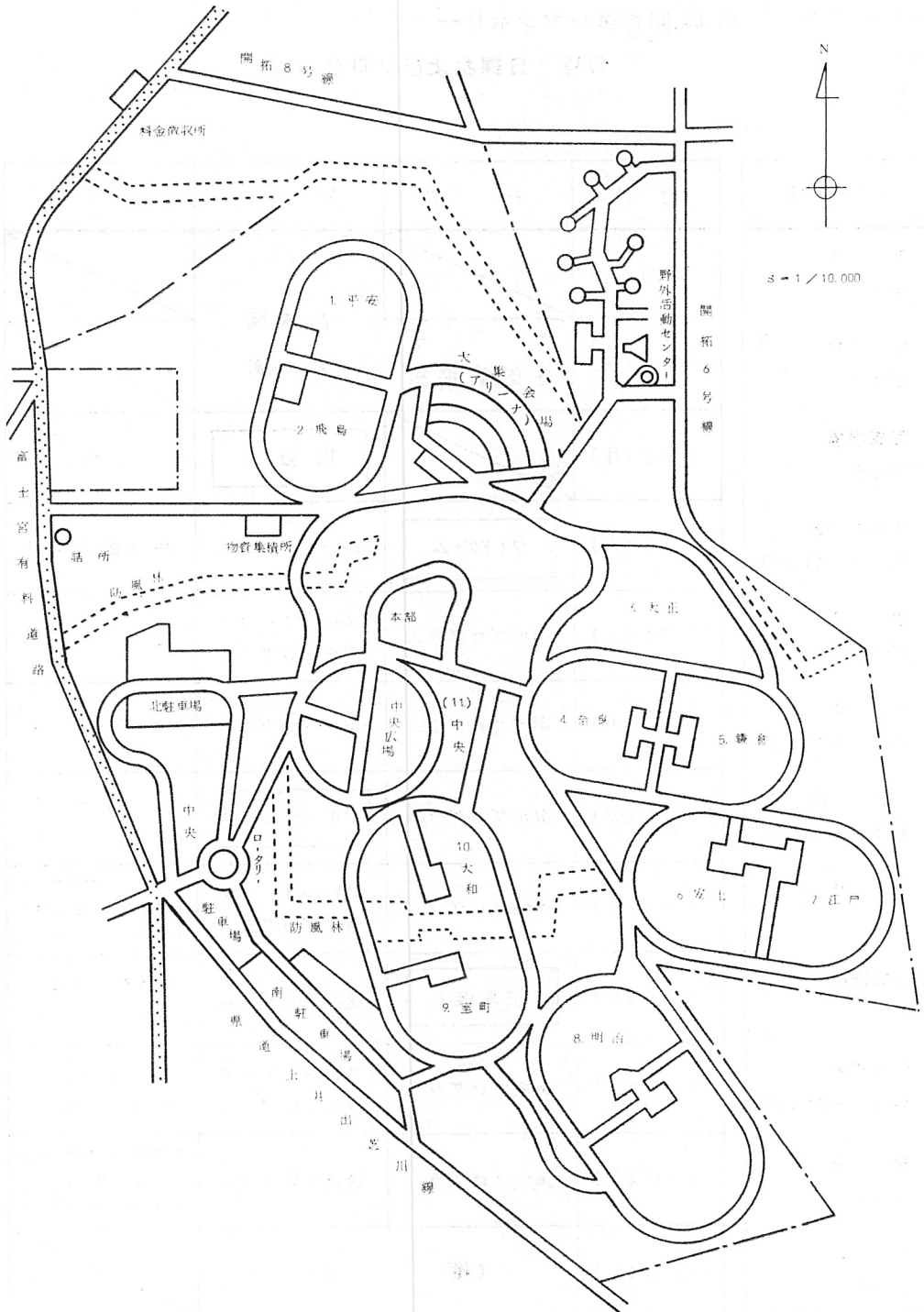
地元の女子高校生と楽しく踊るスカウトたち

# 第13回世界ジャンボリー

## 日程・日課およびプログラム

| 日 課                  | 月 日     | 午 前              | 午 後                 | 夜 間                 |
|----------------------|---------|------------------|---------------------|---------------------|
| 起 床<br>06:00         | 7/31(土) |                  | 派遣団                 |                     |
| 朝 食<br>07:00         | 8/1(日)  | 開 場<br>各 国 旗 掲 揚 | 到 着                 |                     |
| 国旗掲揚<br>08:30        | 8/2(月)  |                  | 開 会 式               |                     |
| 午前の活動<br>08:30～11:00 | 8/3(火)  | ワイドゲーム           | 選択プログラム             | 隊交歓の営火              |
| 昼 食<br>12:00         | 8/4(水)  | 選択プログラム          | スキル・オ・ラマ<br>選択プログラム | 日 本 の タ べ           |
| 休 憩<br>13:00～13:30   | 8/5(木)  | 選択プログラム          | 選択プログラム             | 班 営 火               |
| 午後の活動<br>13:30～16:30 | 8/6(金)  | 選択プログラム          | アリーナーショウ            | サブキャンプ<br>営 火       |
| 夕 食<br>17:30         | 8/7(土)  | 選択プログラム          | スキル・オ・ラマ<br>選択プログラム | アリーナーショウ            |
| 国旗降納<br>18:00        | 8/8(日)  | 宗 教 儀 礼          | 選択プログラム             | 世界相互理解の<br>営 火      |
| 夜の活動<br>19:00～21:00  | 8/9(月)  | 選択プログラム          | スキル・オ・ラマ<br>選択プログラム | サブキャンプ<br>別 れ の 営 火 |
| 就 寝<br>21:30         | 8/10(火) | 選択プログラム          | 選択プログラム             | 閉 会 式               |
| 消 灯<br>22:00         | 8/11(水) | (撤 営)            |                     |                     |

世界ジャンボリー地区野管区配置図



## アメリカ杉の種

静岡県で開催された世界ジャンボリーに参加した岡山市の姉妹都市サンノーゼのボーイスカウト隊長ら3人が8月14日岡山市役所を訪れ、サンノーゼ市長のメッセージとともにアメリカ杉の種を岡崎市長に手渡した。さきに磯島収入役らがサンノーゼ市を訪れた際、友情のしるしに大きく育つアメリカ杉の種を贈りましょうと、同隊長と約束していたもので、公園緑地課では播種の適季を待って苗づくりをし、公園に植える予定である。アメリカ杉は別名レッドウッドと呼ばれ樹齢2,000年、高さ100㍎、直径10㍎もの巨木になるといわれている。

## 昭和47年度

### ボーイスカウト日本連盟50周年記念式典

昭和47年には3月15日に山陽新幹線が開通して東京方面への旅行が非常にスピード化してきた。この開通を記念して、3月15日から5月7日まで、岡山市いずみ町の県運動公園で岡山交通博覧会が開催された。この年は2月に連合赤軍による浅間山荘事件などもあり、暗い幕明けであったが、日本ボーイスカウトにとっては日本連盟創立50周年にあたり、県連盟においても組織倍増や指導者養成などスカウティングの飛躍発展のために努力し着実に成果をあげている。

6月18日には、沖縄連盟のボーイスカウト日本連盟復帰移行記念式典が那覇市ハーバービュークラブで開催され、金光整雄理事長が出席している。また、8月7日から13日まで行われた沖縄野営大会に金光整雄理事長が日本連盟総長代理として出席した。

8月4日から5日にかけて蒜山で自然公園大会が行われ、ボーイスカウト90名が石井集治県連盟事務局職員に引率されて参加し、夜キャンプファイアーに出場している。

11月5日、東京都代々木の明治神宮会館において天皇陛下をお迎えして行われた、日本連盟創立50周年記念式典には、金光整雄理事長が出席した。ボーイスカウト日本連盟が、大正11年に少年団日本連盟として結成されてから昭和47年で50年になり、この間における先輩の実績をかえりみて、その体験と教訓を現代に生かし、国際的視野に立って、将来への歩みを力強くふみだす決意を明らかにするため、11月3日から8日までをスカウト週間と定め全国的に記念行事が実施された。

11月3日の50周年記念中央式典で表彰された岡山県関係者は、次のとおりである。

古川 隼人・内田 律爾・金光 文孝・難波金之助・金光鑑太郎・佐藤 一徳

以上6名である。

12月3日には、組織拡張の一環として、第4地区ボーイスカウト関係者との懇談会を勝山町公民館で開催し、県連盟から松本県コミッショナー他4名が出席してスカウト運動について協議懇談している。なお、各団の発展は団委員長の責務であることから、12月16日に岡山市ホテルニューオカヤマにおいて岡山連盟各団々委員長懇談会を開き、団委員長の任務や活動について研修を行うとともに懇談を行った。

また、昭和48年1月7日には第4地区と同様に第5地区におけるボーイスカウト関係者との懇談を新見市で行っている。

昭和48年度は、ボーイスカウト日本連盟が第1次組織拡張5カ年計画に着手した年で、これに呼応して岡山連盟でも組織拡張の諸施策を樹立し実施することにした。しかし組織拡張のアイデアは多く出されたが実施に至ったのは、ミニ情報の各団（隊）への提供、休団の復活促進、広報宣伝活動、各地区訪問懇談会の開催、指導者養成のため講習会の開催回数の増加、ウッドバッジ研修所の開催と実修所の誘致、キャラバン隊による各団訪問等であった。また特に力を入れて促進をはかったのは各地区における指導者の研修活動とそれに伴う指導者ひとりびとりに対する個別支援、地区におけるスカウトの進歩促進のための技能章考査その他行事活動の推進等である。



ボーイスカウト日本連盟  
50周年記念切手

#### 資 料

#### 天 皇 陛 下 お こ と ば

昭和47年11月5日

ボーイスカウト日本連盟50周年中央式典

本日ここにボーイスカウト日本連盟結成50周年記念中央式典に臨み親しく諸君と一堂に会することはまことに意義深く思います

大正10年英国においてボーイスカウトの訓練を見学しつねにその活動について深い関心をよせてきました翌年ボーイスカウト日本連盟が結成されて以来関係者の不断努力によりその教育精神にもとづく活動を続けて今日の発展をみるにいたったことはまことに喜びにたえません

ボーイスカウト関係者は先人の功をしのびその経験と教訓を現代に生かしさらにちかきとおきてを守り今後とも相協力して連盟の発展を期するとともに次代を担う青少年の健全な育成にいっそう努力することを希望します



## 昭和 48 年度の活動概要

日本連盟組織拡張5か年計画に基づき、岡山連盟としても県連発足25年を契機に、蒜山塩釜野営場で記念野営大会を実施し、広く社会の理解を得ることができた。

また、岡山連盟トレーニングチームを組織し、ウッドバッジ研修所、SS研修会、講習会などの開催、各種研究会、地区コミッショナー研究協議会、指導者連絡会議等を通し、積極的に継続登録の促進、分封政策新団結成に努力してきた。更に各種委員会も軌道にのり、現在関係各委員会での総合的な検討を進め、スカウト倍増、指導者養成、地区活動の充実、国際親善、日本ジャンボリーの準備等に努力して成果をあげた。

## 1 組織拡張

日本連盟組織拡張第1次5か年計画の初年度が、岡山連盟発足25年にあたり、組織拡張委員会において県連、地区、団、その他関係機関との連携により努力した。

(1) 登 録

昭和49年3月末日、現在の登録状況は次のとおりである。

◎登録団数39団、隊数71隊、団委員数180名、指導者数202名、スカウト総数1319名

◎新設隊数 1 個隊，昨年と比べて 133.3 % となる。

(2) 現組織の強化、分封の促進、新団結成の推進

### (3) 地区活動の啓蒙

## 2 指導者養成と進歩

小林信一指導者養成委員長が、昭和48年度日本連盟トレーナーコースを修了し、松本猛トレーナーと共に岡山連盟トレーニングチームの中核として、ウッドバッジ研修所、指導者講習会等指導者養成コースの開設、更にウッドバッジ実修所への入所の勧奨などに努め、指導者の充実を図った。

## ◎講習会

- ボーイスカウト課程(岡山市青年の家) 5月13日, 27日  
(                      "                      ) 9月1日, 2日  
(金光町教育委員会) 11月23日, 25日
- カブスカウト課程(岡山県児童会館) 4月23日, 25日, 27日  
"                      (倉敷文化センター) 10月28日, 11月4日  
"                      (赤磐郡赤坂町公民館) 3月3日

### ◎ウッドバッジ研修所への入所者数

C S 課程 岡山で17名(内女子4名) 計17名(4)

BS課程 鳥取へ4名、長崎へ1名、和歌山へ1名、宮崎へ1名、神奈川へ1名 計8名

◎ウッドバッジ実修所への入所者数

第18期C S課程（那須野營場）1名

第29期BS課程（山中野営場）1名

昭和48年度一般会計決算書

自昭和48年4月1日  
至昭和49年3月31日

| 収入総額      | 支出総額      | 差引残高 |
|-----------|-----------|------|
| 1,985,182 | 1,985,182 | 0    |

収入の部

| 項 目     | 予算額       | 決算額       | 増減△      | 摘 要                                    |
|---------|-----------|-----------|----------|----------------------------------------|
| 収入総額    | 2,520,000 | 1,985,182 | △534,818 |                                        |
| 1 登録料   | 1,210,000 | 1,244,500 | 34,500   | 隊69コ隊、スカウト数1,697名                      |
| 2 財団繰入金 | 950,000   | 181,692   | △768,308 | 48年度一般会計助成金                            |
| 3 補助金   | 150,000   | 221,000   | 71,000   | 県150,000青少年育成県民会議<br>11,000 日本連盟60,000 |
| 4 雑収入   | 10,000    | 43,155    | 33,155   | 預金利息外                                  |
| 5 繰越金   | 200,000   | 294,835   | 94,835   |                                        |

支出の部

| 項 目         | 予算額       | 決算額       | 増減△      | 摘 要                             |
|-------------|-----------|-----------|----------|---------------------------------|
| 支出総額        | 2,520,000 | 1,985,182 | △534,818 |                                 |
| 1 指導教育費     | 824,000   | 734,688   | △ 89,312 |                                 |
| (1) 指導者養成費  | 171,000   | 155,455   | △ 15,545 | 講習会、実修所入所補助<br>S S 説明会外         |
| (2) スカウト育成費 | 125,000   | 200,000   | △105,000 |                                 |
| (3) 派遣費     | 255,000   | 280,995   | 25,995   | 日本連盟全国会議、日本連盟諸<br>会議、中国ブロック会議   |
| (4) 行事費     | 155,000   | 156,668   | 1,668    | ウッドバッジ研修所 CS コース外               |
| (5) 普及宣伝費   | 70,000    | 70,000    | 0        | フィルム                            |
| (6) 野営教材費   | 20,000    | 20,000    | 0        |                                 |
| (7) 表彰費     | 28,000    | 31,570    | 3,570    | スカウト、役員等                        |
| 2 登録費       | 656,000   | 679,810   | 23,810   |                                 |
| (1) 登録料     | 550,000   | 561,090   | 11,090   | 日本連盟払込み1,667名分                  |
| (2) 保険料     | 106,000   | 118,720   | 12,720   | 1,697名                          |
| 3 運営費       | 620,000   | 570,684   | △ 49,316 |                                 |
| (1) 事務費     | 30,000    | 34,143    | 4,143    | 事務用消耗品外                         |
| (2) 備品費     | 15,000    | 13,000    | △ 2,000  | 鍋、コンロ                           |
| (3) 通信運般費   | 150,000   | 171,091   | 21,091   | 電話料外                            |
| (4) 会議費     | 141,000   | 116,910   | △ 24,090 | 事務局会議、団委員長会議<br>隊長連絡会議外         |
| (5) 旅費      | 150,000   | 105,840   | △ 44,160 | 事務局員旅費外                         |
| (6) 負担金     | 4,000     | 5,000     | 1,000    | 中国ブロック、青少年県民会議、<br>明るい県民運動推進協議会 |
| (7) 渉外費     | 100,000   | 61,270    | △ 38,730 | 見舞、餞別、接待外                       |
| (8) 雑費      | 30,000    | 63,430    | 33,430   | 手当、連盟長礼衣外                       |
| 4 子備費       | 20,000    | 0         | △ 20,000 |                                 |
| 子備費         | 20,000    | 0         | △ 20,000 |                                 |
| 5 記念誌編集費    | 400,000   | 0         | △400,000 |                                 |
| 記念誌編集費      | 400,000   | 0         | 400,000  |                                 |

◎シニアースカウトの進歩制度の改正と指導者の研修

岡山会場（岡山市立中央公民館）1月12日、13日 参加者46名

県連盟では、指導者養成委員会、トレーニングチーム 地区コミッショナー会議、地区委員会を中心に活発な研究を行い、効果的なプログラム立案に努力した。（173ページ参照）

### 3 岡山連盟発足25年記念野営大会

昭和48年8月3日（金）～6日（月）まで3泊4日間、岡山県真庭郡八束村塩釜野営場で、スカウト944名が参加して行われ、合せてカブスカウトラリーも実施した。

### 4 国際交流と国際親善

フィリピン50年記念ジャンボリー派遣

昭和48年12月21日岡山出発、フィリピンラグーナ州ロスパニヨスマツキリン大会場でジャンボリーに参加し、その後バギオ、リサル地区で民泊をして、昭和49年1月10日帰国した。参加したのはスカウトのみ13名である。

### 5 第6回 日本ジャンボリーの準備

昭和49年8月北海道千歳原において開催される、第6回日本ジャンボリーについては、関係機関各地委員会と調整し、県連盟派遣団参加人員の確定、参加費の納入及び参加経路等の準備を行った。

## ボーイスカウト日本連盟と財団法人ボーイスカウト

### 日本連盟の一体化について

#### 1 一体化の必要性について

従来、ボーイスカウト日本連盟がこの運動の実施団体であり、財団法人ボーイスカウト日本連盟が、その運動発展のための援助育成団体であった。

(1) この運動を更に拡大強化するために、実施団体のボーイスカウト日本連盟が法人格をもつこと。

(2) ボーイスカウト世界会議加盟資格に法人であること。

(3) 国庫補助及び公約機関の援助対象団体は法人格をもつこと。

(4) 一般社会よりの寄付行為に対して法人格をもつこと。

#### 2 財団法人ボーイスカウト日本連盟の寄付行為の改正について

前述の理由によりボーイスカウト日本連盟を法人化する必要にせまられ、社団法人とするかどうか種々検討の結果、現在の財団寄付行為の一部を変更し、歴史あるこの法人を運動の実施団体とするの方針を決定した。

3 ボーイスカウト振興国会議員懇談会の援助を受け、文部省、大蔵省、その他の関係省庁に対し「ボーイスカウト日本連盟に対する寄付金」を指定寄付金の取り扱いを受けられるよう、昭和48年4月の法令改正を機に「試験研究法人等」の法人に指定し、第3者からの寄付金を損金に算入できる特典が与えられる前提条件として「文部大臣の主管に属する民法第34条の法人で、

青少年教育実施を主たる目的とする法人」の条件を整備した。

4 昭和48年2月18日臨時全国総会、2月19日財団臨時理事会で承認を受け、4月1日から認可された。

5 社会教育関係団体の中では唯一の認可された団体である。

6 一体化に伴うボーイスカウト日本連盟規約の改正について

日連規約改正委員会で運動の実施機関として、ボーイスカウト教育中央本部を設け、これに属する機関がスカウト教育を実施することにした。

改正は最少限度にとどめるよう努力されている。

#### 県連盟規約の改正と表彰内規の一部変更及び県連盟事務局とコミッショナー機構の整備強化

日本連盟の規約改正に伴い、昭和48年6月2日の県連盟総会において県連盟の規約を改正し、組織の強化を図ることにした。規約の改正は、県連盟役員の任務・選任の会議の構成、運営委員会の構成、地区組織・事務局機構等について条項の内容を整理したものである。（規約の条文については巻末資料参照）

表彰内規については、従来明文化されていなかった内容を明文化し、具体的に条文を記述したことである。大体において内容のうえからは、昭和35年に制定したものを一部改正したにすぎない。

県連盟事務局機構については、昭和47年度から機構の整備を行い、職員の業務内容を明確にし責任体制を明らかにするとともに、協働できるように機構改革を行った。特に県北部の過疎地域の教育指導を強化するため、北部担当の事務局職員を置き、大橋武志がこの業務を行うことになった。

県コミッショナー機構については、新プログラムの施行に伴い、運営担当、カブ担当、ボーイ担当、シニア担当の4人の副コミッショナーを置き、教育指導を強化した。（注 事務局機構及びコミッショナー機構については86ページ参照）

#### 岡山連盟発足25周年記念野営大会の開催

戦後日本ボーイスカウトが復活再建され、岡山県では、昭和23年に初めて浅口第1隊が日本連盟に登録された。それからはや25年を経過し、岡山連盟が結成されて23年を迎え、現在スカウト数も1200名を超えるに至った。

この発足25周年を記念して、記念野営大会を開催した。その概要は次のとおりである。

##### 1 趣 旨

岡山連盟発足25年、財団設立3年を迎え、その足跡の中に育てられた県下スカウトが、一場に会して日頃の訓練の成果を発表すると共に、来年の第6回日本ジャンボリーに備え、各隊で実施できない訓練を大自然の中で行い、相互の理解と友情を深め、スカウト運動の飛躍的發展と、充実を期し、青少年の健全育成を促進する。

##### 2 場 所

岡山県真庭郡八束村塩釜 蒜山ロッジ野営場

### 3 期 日

自 昭和48年8月3日(金) }  
至 昭和48年8月6日(月) } 3泊4日

### 4 主 催

岡 山 県  
岡 山 県 教 育 委 員 会  
日本ボーイスカウト岡山連盟

### 5 後 援

|              |                 |
|--------------|-----------------|
| ガールスカウト岡山県支部 | 山 陽 新 聞 社       |
| 岡山県真庭郡八束村    | 岡 山 日 日 新 聞 社   |
| 岡山県青少年育成県民会議 | N H K 岡 山 放 送 局 |
| 明るい県民運動推進協議会 | 山 陽 放 送 株 式 会 社 |
| 岡山県高等学校長会    | 西日本放送株式会社       |
| 岡山県中学校長会     | 岡 山 放 送 株 式 会 社 |
| 岡山県小学校長会     | 両 備 バ ス 株 式 会 社 |

### 6 参 加 資 格

- (イ) 昭和48年度の加盟登録を完了し、2級以上のスカウト及び指導者で、3泊4日の野営に耐え得るもの
- (ロ) 隊長及び保護者の参加承認を受けた者  
(カブラリー参加のカブスカウトも含む。)
- (ハ) 所定の健康診断に合格した者
- (ニ) 指導者は団及び隊と行動を共にし、所属長などの承認を受けた者
- (ホ) 大会役員は、大会本部で適当と認め委嘱された者

### 7 参 加 人 数

岡山連盟内の指導者、スカウト総数944名参加。

そのほかガールスカウト95名、鳥取連盟から28名が参加している。

### 8 参 加 費

- (イ) 参加者1人当たり2,000円とし、参加申込みと同時に納入する。
- (ロ) カブラリー参加のカブスカウトは1人当たり200円とし、申込みは(イ)と同じ。
- (ハ) 納入した参加費は、他のスカウトに振り替えることはできるが払戻しはしない。

### 9 参 加 申 込

- (イ) 申込みは、規定の申込書に必要事項を記入し、参加費を添えて岡山連盟事務局あて申込む。
- (ロ) 申込書は各団2通を作成し、1通は団に、1通は県連事務局あて送付する。
- (ハ) 申込期限

昭和48年6月30日必着のこと

- (二) 大会本部は申込書及び参加費受付と共に「参加承認書」「健康診断書」「参加章」その他を、各団あてに送付する。

#### 10 到着受付手続

- (1) 参加各団は、野営場大会本部受付で、到着次第手続きを行う。
- (2) 受付は各団単位に次のことを行う。
  - (イ) 申込名簿と到着人員との照合
  - (ロ) 健康診断書の確認と提出
  - (ハ) 配給物品の交付券（副食・燃料など）
  - (ニ) 設営地の指示と確認
  - (ホ) その他
- (3) 申込み以外の追加参加は受けない。
- (4) 参加者は必ず参加章をつけ、これをもって参加確認証とする。



岡山連盟結成25周年記念野営大会の開会式で挨拶する長野連盟長



## 11 全体の日程表

|       | 8 月 3 日<br>(金)                                                                                                                                                                           | 8 月 4 日<br>(土) | 8 月 5 日<br>(日) | 8 月 6 日<br>(月) |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|
| 5:30  |                                                                                                                                                                                          | 当 番 起 床        | 当 番 起 床        | 当 番 起 床        |
| 6:00  |                                                                                                                                                                                          | 全 員 起 床        | 全 員 起 床        | 全 員 起 床        |
| 7:00  |                                                                                                                                                                                          | 朝 食<br>(点検・朝礼) | 朝 食<br>(点検・朝礼) | 朝 食<br>(点検・朝礼) |
| 8:00  |                                                                                                                                                                                          | 国 旗 掲 揚        | 国 旗 掲 揚        | 国 旗 掲 揚        |
| 9:00  |                                                                                                                                                                                          | 自由参加行事         | 日 曜 儀 礼        | 撤 営 準 備        |
| 10:00 | <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> ↑ 受 付<br/>↓ 設 営<br/>↓ 指導者会議 </div> </div> |                | カ プ ラ リ ー      |                |
| 11:30 |                                                                                                                                                                                          | 昼 食            | 昼 食            | 昼 食            |
| 13:00 |                                                                                                                                                                                          |                | カ プ ラ リ ー      | 閉 会 式          |
| 14:00 |                                                                                                                                                                                          | 自由参加行事         | 自由参加行事         | 撤 解<br>営 散     |
| 17:00 |                                                                                                                                                                                          | 夕 食<br>国 旗 降 納 | 夕 食<br>国 旗 降 納 |                |
| 19:00 |                                                                                                                                                                                          |                | 各 隊 友 情 交 歓    |                |
| 20:00 |                                                                                                                                                                                          | 大 営 火          |                |                |
| 21:00 |                                                                                                                                                                                          | 地区代表者会議        | 地区代表者会議        |                |
| 22:00 |                                                                                                                                                                                          | 就 寝<br>消 灯     | 就 寝<br>消 灯     |                |

## 12 組 織

### (1) 隊又は団の派遣団

- (イ) 隊編成は原隊の組織を中心に、スカウトを託する指導者が同行する。
- (ロ) 各団単位に派遣団組織を考え、地区単位の野営地区本部を構成し、隊又は団相互の連絡調整を図る。
- (ハ) 各団とも大会本部との連絡は、野営地区本部を通じて行う。

### (2) 野営地区並びに野営地区本部

- (イ) 野営地は、県連地区組織を準用し、次のとおり区分し、この7地区をもって構成する。

第 1 地 区 岡山の各団

第 2 地 区 西大寺・備前・赤磐・御津・都窪の各団

第 3 地区 倉敷・児島・玉野の各団

第 4 地区 玉島・浅口・笠岡・津山・真庭・英田・新見・高梁・阿哲の各団

第 5 地区 県外からの派遣団

大会本部地区大会本部・売店・需品部

特別野営地区ガールスカウト各団

各地区は関係する団（隊）の協議により、野営地区本部を組織する。

(ロ) 野営地区本部の組織は、大会本部の役割と関連をもたせるように配慮する。

(ハ) 県外参加スカウトについては、大会本部で割当てる。

(3) 野営地の割当て

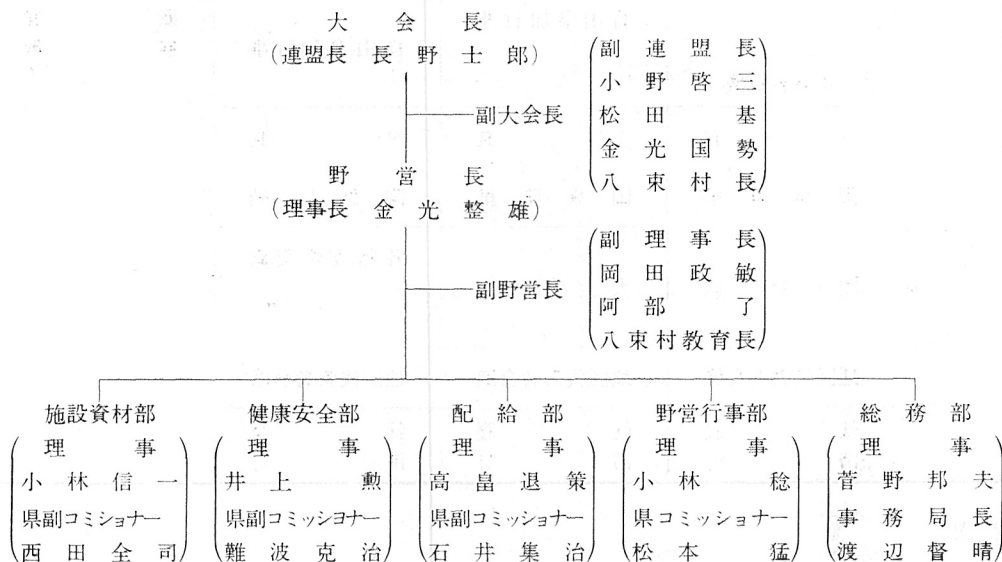
(イ) 大会本部は、各地区毎に野営地割当てを行う。

(ロ) 各団（隊）に対する地区割当ては、野営地区本部の責任において行う。

(ハ) 野営地区本部の位置は、大会本部において指定する。

(ニ) 野営地の諸施設の使用規定は別に定める。

(4) 大会本部及び大会役員



(5) 各部に部員として指導者数名を置く。

(イ) 総 務 部

- 1 大会事務，大会組織を主管
- 2 予算，資金，会計事務の主管
- 3 通信，郵便，売店，需品等の円滑運営の主管
- 4 協賛団体，宣伝，報道等関係機関との連絡調整
- 5 参加者の確認と掌握
- 6 来賓，来訪者，参加者等の案内など

7 その他各部に属さないこと。

(ロ) 施設資材部

- 1 大会場並びに諸設備の設定と管理及び営繕
- 2 資材の調達準備と配分及び管理
- 3 大会場全体配置計画に伴う総合野营地割の管理
- 4 その他

(ハ) 野営行事部

- 1 大会場全体配置計画に伴う野营地割の指導実施
- 2 キャンプ管理、スカウティング管理の監察、指導、助言
- 3 プログラムの徹底とその完全進行を主導
- 4 プログラムに伴う諸行事の主導
- 5 教材の調達準備と配分及び管理
- 6 その他

(ニ) 健康安全部

- 1 大会場内の健康安全計画の推進とその管理
- 2 保健所、関係医療機関等との連絡調整
- 3 救護対策の実施運営、救護施設の管理等の主導
- 4 健康調査
- 5 その他

(ホ) 配給部

- 1 食糧計画に伴う諸物資の調達と配給
- 2 燃料その他野営物資の調達と配給
- 3 配給組織の確立と監督
- 4 その他

以上5部は、実施項目について、各部間の連絡調整を図り徹底を期する。

(6) 地区代表者会議

- 1 地区本部長及び大会本部員をもって構成する。
- 2 大会実施計画のすべてを確認し実行する。
- 3 この会議は、毎日定例的に野営長が招集する。

## 13 設 営 計 画

(1) 野 営 場

(2) 野営場施設

(イ) 中央広場、国旗掲揚ポール

(ロ) 本部設備、各種通信設備、電気照明設備

本部設備は、本部地区に集約をする。

通信設備は蒜山ロッジに電話 1，郵便函 1 を借用，準備する。

(イ) 救護所及び患者収容所

救護班によって治療をする。

なお，外科的手術を要する場合は，指定の病院に入院する。

(ニ) 物資配給所，一般食堂，売店，倉庫，需品部

(ホ) 便 所

野営地区周辺に数か所を設置し，その管理は地区本部において行う。

(ヘ) 給 水

所定の位置に給水所を設ける。

## 14 服装及び携行品

### (1) 服 装

(イ) 制服の右ポケットに参加章を縫い付ける。

(ロ) スカウトとして定められた記章，標章を正しく付ける。

(イ) 半袖，半ズボンを原則とする。

### (2) 主食，その他

期間の必要量を持参する。食糧品は，献立（大会本部にて指示）に伴い本部配給とする。

（配給計画を参照）

### (3) 野営用具

野営に必要な用具（装備・天幕・工具・炊事具等）を個人装備，団隊，又は班用具として準備する。

(イ) 山岳気象のため相当の雨量も予想されるので，ビニール製敷物等を準備して設営の万全を期する。

(ロ) 食卓用資材の分解携行を考慮されたい。夜間は冷えるので防寒衣の準備を忘れないこと。

(イ) 大会のため，団独自の装飾を準備することが望ましい。

### (4) 国旗，隊旗

(イ) 国旗は，隊旗とはほぼ同じ大きさのもので，旗竿の長さは 2.1 m とする。

(ロ) 隊旗は常に集団行動の時に保持する。

### (5) その他

(イ) 登録証

(ロ) 参加申込書の控と健康診断書

(イ) 各自の健康保険証番号を控えてくる。

(ニ) スカウトとしての救急薬品（大会本部としても準備はする。）

(ホ) 敷物については，各隊にて準備する。

(ヘ) 荒天準備として，一食くらいの非常食を携行することが望ましい。

## 15 配 給 計 画

(1) 物資配給所と物質配給組織

- (イ) 規定野営物資は、配給所を設けて地区を単位として一括配給する。
- (ロ) 配給を円滑に行うため野営地区本部は、配給係を設ける。
- (ハ) 各野営地区本部の配給係は、各団別に末端配給の要員を確保し、綿密に計画し準備する。

(2) 食糧品

- (イ) 配給は、8月3日夕食より6日昼食までの9食分の副食物とする。
- (ロ) 主食の米麦は各自持参のこと。
- (ハ) 副食物品は、基本献立に従って配給をする。
- (ニ) 配給期間前後の食糧は、計画的に持参するか、現地で購入する。

(3) 燃料

- (イ) 大会期間中の燃料を配給する。
- (ロ) 燃料は節約使用し、炊事の方法、カマドの工夫を考える。

16 通 信

(1) 郵便、電報

郵便物は、大会期間中、次のあて名で配達される。

岡山県真庭郡八束村上長田

蒜山ロッジ気付

ボーイスカウト野営大会本部内

\_\_\_\_\_第\_\_\_\_\_団\_\_\_\_\_隊\_\_\_\_\_氏\_\_\_\_\_名\_\_\_\_\_

(2) 電 話

大会期間中の電話は、蒜山ロッジの上長田 104 番を借用使用する。

17 管 理 計 画

(1) スカウト及び指導者

- (イ) 常に、スカウト精神をもって、規定されたことを進んで守り、りっぱな態度で行動する。
- (ロ) 参加スカウト及び指導者は、大会本部、地区本部の組織下に入り、関係者の指導を求める。
- (ハ) 野営場からの出入の際は、大会の秩序を保ち、事故を未然に防ぐため、大会本部に届け出て行う。
- (ニ) 大会本部各部の管理計画は別に定め、それに従うが、特に健康安全管理については、参加団として周到な計画を立案する。
- (ホ) 外科的手術等を要する一般病院患者の治療は、初診料のみ本部負担とする。

(2) 来 訪 者

- (イ) 一般参観者並びに各種青少年団体の多数来場を心から歓迎する。
- (ロ) 一般参観者の野営場内への入場は、原則として毎日8時から21時までとする。  
来訪者のために食堂設備を設ける。

(3) 行商人の入場立売は厳禁する。

(4) 荒天収容施設

荒天により、キャンプ継続実施困難な場合は、別に収容場所を設ける。

## 18 参加団の準備と訓練

(1) 隊の指導者は、大会実施要項を熟読して、スカウトに発表すると共に団委員会に相談する。

(2) 団委員会を中心に育成会あるいは、父兄会を開き概要を説明する。

(3) 参加を決定したときは、第1段階として次のことをする。

(イ) 初級スカウトの2級進級訓練実施

(ロ) 参加費の調達をはじめる。

(ハ) キャンプ用具の整備を図る。

(ニ) 各人の予備健康診断をする。

(4) 第2段階として次のことをする。

(イ) 保護者から正式参加許可を受ける。

(ロ) 団指導者は参加に関する予備打合わせをし、基本方針を決定する。輸送、観光、プログラム、派遣団組織等

(ハ) 各団の基本方針に基づき、輸送計画を具体的に決定する。

(ニ) 参加者から参加費を集める。参加申込書2通を作成する。

(ホ) 岡山連盟事務局あてに、申込書1通と参加費をそえて、6月30日までに申し込むこと。

(ヘ) 大会本部は、正式申込みの受理次第、「参加承認書」と「健康診断記録」「参加章」その他を各参加団あてに送付する。

(ト) 参加団は参加訓練を継続すると共に、団、隊及び班の携行品の点検、荷物造り、役割分担をする。

(チ) 各地区は、営火出し物を6月30日までに県連事務局あて申し込むこと。

参加申込地区名

出 し 物 名

所 要 時 間

演出責任者氏名

(5) 団標示ブラカードを準備する。

横 80 cm, 縦 20 cm, 所持棒 40 cm, 団名を記入する。

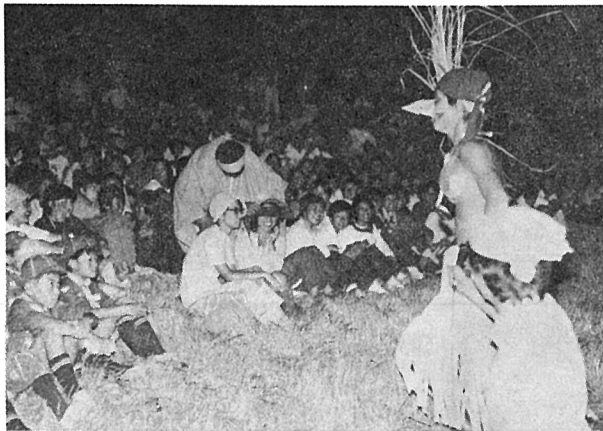
## 19 そ の 他

ガールスカウトの参加については、岡山県支部の指示に従うこと。

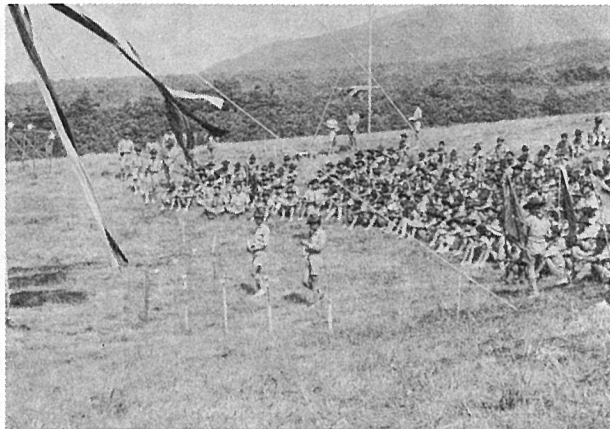




岡山連盟発足25周年記念野営大会の景観



楽しいキャンプファイアー



日曜儀礼  
敬虔な祈りのひととき

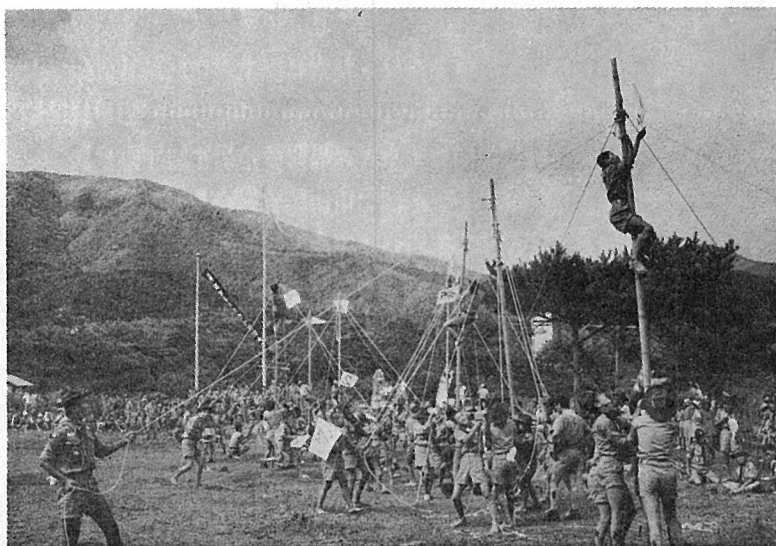
## 20 岡山連盟発足25周年記念野営大会経費決算書

### 収 入 の 部

| 科 目     | 予 算 書                  | 決 算 書                  | 差 引                   | 備 考                      |
|---------|------------------------|------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 1 参 加 費 | 2,020,000 <sup>円</sup> | 1,479,400 <sup>円</sup> | △540,600 <sup>円</sup> | 2,000円×717名<br>200円×227名 |
| 2 県費補助金 | 150,000                | 150,000                | 0                     |                          |
| 3 財団補助金 | 250,000                | 225,033                | △ 24,967              |                          |
| 4 雑 収 入 | 0                      | 5,000                  | 5,000                 | G. S. よりお祝               |
| 計       | 2,420,000              | 1,859,433              | △560,567              |                          |

### 支 出 の 部

| 科 目       | 予 算 額                | 決 算 額                | 差 引                  | 備 考                                    |
|-----------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------------------------|
| 1 行 事 費   | 100,000 <sup>円</sup> | 259,276 <sup>円</sup> | 159,276 <sup>円</sup> | テント10張, 155,000円<br>開閉会式, 大營火, カブラリー   |
| 2 表 彰 費   | 65,000               | 70,780               | 5,780                | 楯, 並に文字代                               |
| 3 消 耗 品 費 | 220,000              | 209,190              | △ 10,810             | 参加章200円×1,000枚<br>参加リボン135円×60枚        |
| 4 食 料 費   | 1,800,000            | 1,129,552            | △670,448             | 717名分食料                                |
| 5 燃 料 費   | 70,000               | 84,980               | 14,980               | 薪代                                     |
| 6 通信運般費   | 50,000               | 5,870                | △ 44,130             | 電話料, トラック謝金                            |
| 7 印刷製本費   | 45,000               | 32,200               | △ 12,800             | 開催要項200部, 健康診断書1,000枚<br>役員名簿100部, 40枚 |
| 8 借 上 料   | 30,000               | 30,000               | 0                    | 4ヘクタール                                 |
| 9 雑 費     | 40,000               | 37,585               | △ 2,415              |                                        |
| 計         | 2,420,000            | 1,857,433            | △560,567             |                                        |



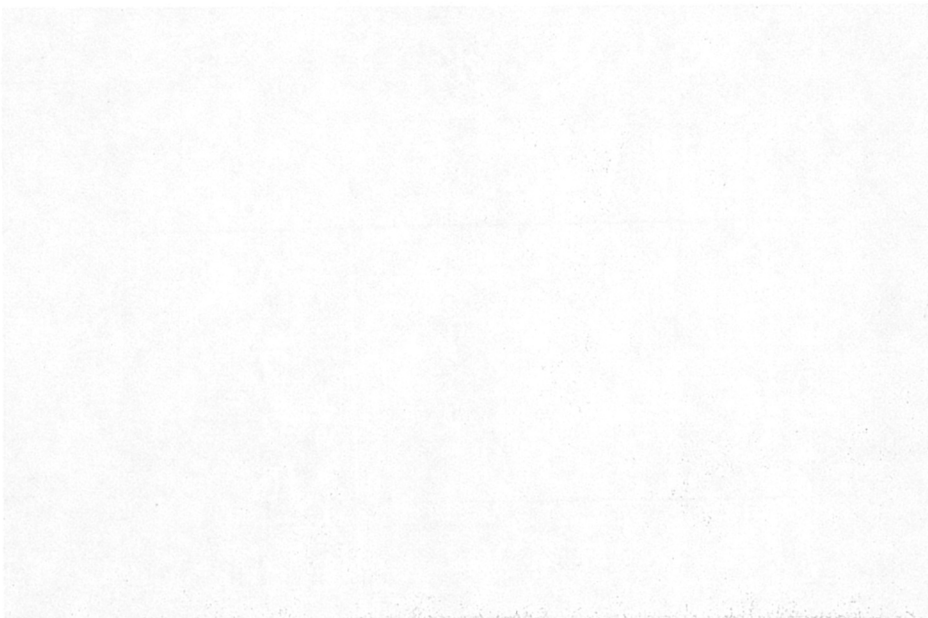
旗上げ競技

## 21 野営大会の反省

この野営大会は、明年開催される第6回日本ジャンボリーをひかえ、岡山県にボーイスカウトが戦後再建されて25周年を記念して行われたが、第6回日本ジャンボリーは、会場が北海道のため、岡山県連盟に対する参加人員の割当ても少ないと予想されるので、参加できないスカウトのためにも、野営大会を行ってやりたいという意見もあって開催された。

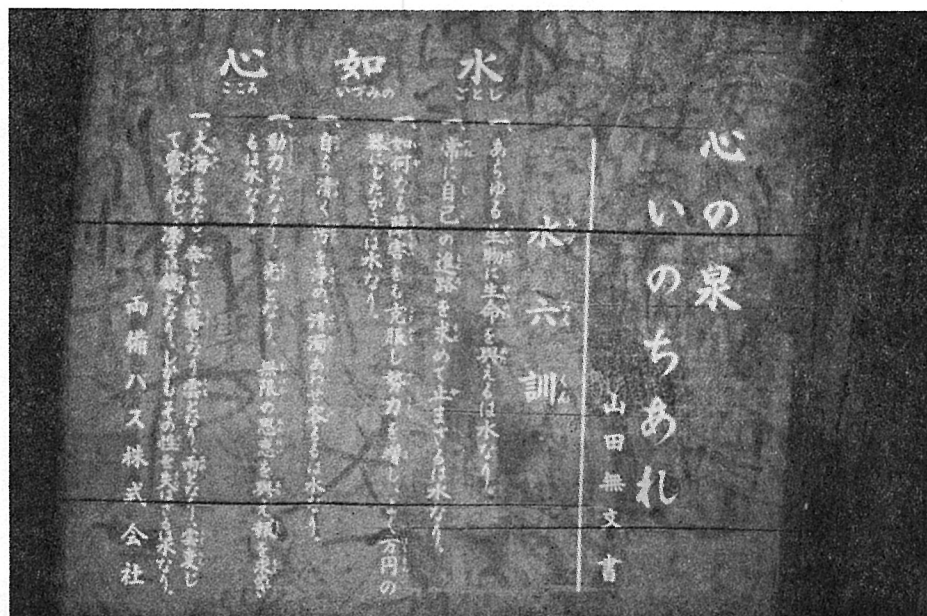
この野営大会の会場は、県連盟結成20周年記念野営大会（昭和44年8月）と同じ場所であり、地形・気候・その他地域環境もよく分かっており、特に両備グループの経営する蒜山ロッジが所有している野営場と、その周辺の民有地を借用して使用することになったので、計画準備その他非常に便利であった。ただ一番問題となったのは、給水と物資の配給であったが、これも蒜山ロッジから水道管をのばして配水し、物資の配給は、両備ストア本部において、すべて調達することになり解決した。したがって今回の野営大会の実施計画は、その後の昭和51年8月に開催した西日本キャンボリー及び昭和55年8月に実施した、県連盟結成30周年記念野営大会のモデルとなった。

今回の野営大会の特色としては、ボーイスカウト・シニアスカウトの野営大会に合わせて、カブスカウトが蒜山ロッジ野営場に1泊し、8月5日の日曜日にカブラリーを実施したことである。スカウトの自由参加の行事や全体行事としては、20周年記念野営大会と同様に蒜山登山、1泊ハイキング・クロスカントリー・パイオニアリング・ワイドゲーム、大営火など平素各団や各隊で実施できにくいものをとりあげて行った。櫓組み競技にしても、観察ゲームにしても、蒜山という大自然の中で、のびのびとスケールの大きい競技やゲームを実施し、スカウトがこれに挑戦することにより、野外活動の楽しさを心ゆくばかり味わうことができた。





岡山連盟結成25周年記念野営大会で建設した第2ケルン  
(位置を移動後のもの)



蒜山ロッジ塩釜キャンプ場の「水六訓」

## 昭和 49 年度の活動概要

### 概 要

- (1) 松方三郎総長ご逝去により、新総長に渡辺昭総コミッショナーを、総コミッショナーに今田副総コミッショナーを5月の全国会議で推戴し、新総長のもとに、従来よりの長期計画を遂行すると共に、第6回日本ジャンボリー、フォード大統領来日の際のスカウトとの懇談会等国内はもちろん、国際的にも有意義な年であった。また本年3月、日本のスカウト運動の偉大な父とも仰ぐ石坂泰三総裁の突然のご逝去は、一年間に総長、総裁を失うという不幸に見舞われたが、総裁・総長の生前の御意志を継ぎ、本運動の発展に尽す決意を新たにした。
- (2) 県連盟のかねてよりの願いであった、ウッドバッジ実修所地方開設のBS課程では最初、CS課程では広島連盟につづぎ密、第2回の受け入れを実施したことは、今後地方に在住する指導者の奉仕及び入所に非常に役立ち、岡山連盟の指導者養成に大きな成果をもたらした。

### 1 組織拡張

日本連盟組織拡大長期計画第1次5か年計画の2年目に当たり、理事長を中心に、組織拡大委員会を発起させ県連盟、地区、団、その他関係諸機関団体と連携を密にして、組織拡張に努力してきた。

#### (1) 登 録

昭和50年3月末日現在の登録状況は次のとおりである。

|           |         |
|-----------|---------|
| ◎ 登 録 団 数 | 39 団    |
| 隊 数       | 71 隊    |
| 団 委 員 数   | 180 名   |
| 指 導 者 数   | 195 名   |
| スカウト総数    | 1,193 名 |

- (2) 現組織の強化、新団結成の促進
- (3) 指導者養成機構の増強、団委員会活動の強化
- (4) 地区活動の啓発

#### 資 料      組 織 拡 大 に つ い て 日 本 連 盟 の 方 針

##### ① 日本連盟の施策

- (1) 団委員研修会の標準化
- (2) 団委員長研究会の設置
- (3) 指導者の発掘法の研究・指導とそのパンフレットの作成
- (4) 県連（地区）の実態調査カードの作成及び診断指導
- (5) 県連財政健全化方策の研究
- (6) 組織拡大主事制度の拡大充実
- (7) P R 活動の強化

具体策として

ア 団委員会活動を強化するために

団委員ハンドブックの出版

団委員研修会の指導要綱作成

イ 組織拡大主事制度拡大増員

13県に設置

埼玉・島根・福岡・熊本・沖縄・北海道・福島・新潟・富山・静岡・愛知・徳島・宮崎

毎年5県連盟を目標に増員設置の計画

ウ PR活動用パンフレット・スライド・写真パネルの作成 特に「組織拡大のための考え方とその方法」

の冊子を刊行——県連・地区・団での組織拡大のための具体的方法を紹介する。

エ ブロック別組織拡大研究会の開催

② 今後に解決しなければならない問題

(1) 指導者の確保について

ア 指導者の予備役

勤務の関係で、勤務地の原隊を離れ、他へ移住した場合に、日本連盟へ予備役として登録する制度

イ 指導者の移動に当って、県連盟間の情報の送受を行う。(転居、勤務地移動)

(2) 組織拡大に伴う指導者確保の業務分担

指導者の確保は、組織拡張委員会が担当し、指導者の養成と教育は、指導者養成委員会が担当する。

この間の連絡が特に必要である。

③ 組織拡大の目標

昭和50年度はスカウト・指導者登録数の目標が25万人であったが、昭和50年9月末で218,588人である。昭和51年度はスカウト・指導者登録数の目標を27万名として努力する。

参考育成団体の性格(昭和50年3月末)

|                    |     |                              |
|--------------------|-----|------------------------------|
| 地域                 | 62% |                              |
| 宗教団体               | 18% | (仏教7%, キリスト教6%, 神道3%, その他2%) |
| ライオンズクラブ, ロータリークラブ | 6%  |                              |
| 企業職域               | 4%  |                              |
| 学校                 | 3%  |                              |
| 施設                 | 1%  |                              |
| その他                | 6%  |                              |

## 2 指導者養成

小林信一理事、松本県コミッショナーを中心に岡山連盟トレーニングチームを編成し、指導者養成コースとしての講習会を14回開設、更に日本連盟主催のウッドバッジ実修所BS課程、CS課程の2コースを金光野営場において開設すると共に、ウッドバッジ研修所への入所、各種研修会、研究会に指導者が積極的に参加し研修意欲が増大した。

### ◎ 講習会

修了者 198名

。ボーイスカウト課程(3回)

修了者 41名

第1地区 1回 修了者 男3 女4 計 7



|      |    |     |     |    |     |
|------|----|-----|-----|----|-----|
| 第2地区 | 1回 | 修了者 | 男18 | 女1 | 計19 |
|------|----|-----|-----|----|-----|

|      |    |     |     |    |     |
|------|----|-----|-----|----|-----|
| 第4地区 | 1回 | 修了者 | 男14 | 女1 | 計15 |
|------|----|-----|-----|----|-----|

|    |    |     |     |    |     |
|----|----|-----|-----|----|-----|
| 合計 | 3回 | 修了者 | 男35 | 女6 | 計41 |
|----|----|-----|-----|----|-----|

。カブスカウト課程（11回）

修了者 157名

|      |    |     |     |     |      |
|------|----|-----|-----|-----|------|
| 第1地区 | 8回 | 修了者 | 男35 | 女72 | 計107 |
|------|----|-----|-----|-----|------|

|      |    |     |     |     |     |
|------|----|-----|-----|-----|-----|
| 第3地区 | 2回 | 修了者 | 男11 | 女20 | 計31 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|

|      |    |     |    |     |     |
|------|----|-----|----|-----|-----|
| 第5地区 | 1回 | 修了者 | 男6 | 女13 | 計19 |
|------|----|-----|----|-----|-----|

|    |     |     |     |      |      |
|----|-----|-----|-----|------|------|
| 合計 | 11回 | 修了者 | 男52 | 女105 | 計157 |
|----|-----|-----|-----|------|------|

◎ ウッドバッジ研修所

修了者 6名

。CS課程 兵庫連盟 S49年5月 3日～6日 3名

|       |      |        |         |    |      |
|-------|------|--------|---------|----|------|
| 。BS課程 | 兵庫連盟 | S49年5月 | 3日～6日   | 1名 | } 2名 |
|       | 島根連盟 | S49年7月 | 21日～24日 | 1名 |      |

。SS特修課程 日本連盟 S49年10月10日～13日……………1名

◎ ウッドバッジ実修所

修了者 6名

。CS課程 第20期 金光野営場 S49年9月3日～8日 2名

。BS課程 第32期 那須野営場 S49年9月15日～21日 1名

。 " 第33期 金光野営場 S49年11月1日～7日 3名

◎ ボーイスカウト指導者野営技術研究会 参加者 15名

S49年7月13日（土）～14日（日） 1泊2日

金光教本部斎場を利用し、モデルキャンプサイトの野営工作物の製作などを行った。

### 3 スカウトの進歩

シニアースカウトのスノーキャンプ

昭和50年3月28日（金）から29日（土）までの1泊2日間、大橋武志県副コミッショナー（北部担当）が隊長となり、県下各シニアースカウトから派遣参加した、14名のシニアースカウトで訓練隊を編成し、新見市千屋スキー場一帯において雪中野営訓練を行い、第2日目は新見市千屋から鳥取県根雨まで雪中山地踏査訓練を実施した。

（詳細は177ページ参照）

### 4 第6回日本ジャンボリー参加

第6回日本ジャンボリーは、8月1日から6日まで北海道千歳原において、12か国の外国派遣団を迎え、26,118名の参加スカウトにより盛大に開催された。

岡山連盟では、7月27日県庁前で壮行式を行い、金光理事長を派遣団長として、122名のスカウトと指導者が、バスと日本海フェリーで会場に向い、「大自然」のテーマのもとに、予定通り遺憾なく訓練の成果を発揮し、8月9日全員無事帰岡した。



## 資 料

## 指導者養成関係

## A 昭和49年度 指導者講習会開設状況

S 50年 3 月末現在

| 連<br>盟   | 課程     | C S 課 程 |      |      |      |        | B S 課 程 |       |     |      |    | 總 計    |        |       |      |        |
|----------|--------|---------|------|------|------|--------|---------|-------|-----|------|----|--------|--------|-------|------|--------|
|          | 回<br>數 | 修 了 者   |      |      |      | 合<br>計 | 回<br>數  | 修 了 者 |     |      |    | 合<br>計 | 回<br>數 | 修了者   |      | 合<br>計 |
|          |        | 加 盟 員   |      | 非加盟員 |      |        |         | 加 盟 員 |     | 非加盟員 |    |        |        | 加 盟 員 | 非加盟員 |        |
|          |        | 男       | 女    | 男    | 女    |        |         | 男     | 女   | 男    | 女  |        |        |       |      |        |
| 岡山       | 11     | 31      | 23   | 21   | 82   | 157    | 3       | 15    | 2   | 20   | 4  | 41     | 14     | 71    | 127  | 198    |
| 日本<br>連盟 | 181    | 1771    | 2482 | 607  | 1236 | 6069   | 127     | 1981  | 158 | 829  | 69 | 3037   | 308    | 6392  | 2741 | 9133   |

## B 昭和49年度 ウッドバッジ研修所入所状況

S 50年 3 月末現在

| 課 程  | C S                   | B S                 |                       | S S                    | 総<br>計     |
|------|-----------------------|---------------------|-----------------------|------------------------|------------|
| 名 称  | 兵 庫 3 期               | 兵 庫 4 期             | 島 根 1 期               | 特 修 1 期                |            |
| 担当県連 | 兵 庫                   | 兵 庫                 | 島 根                   | 日 連                    |            |
| 期 間  | S 49<br>5 月 3 日～6 日   | S 49<br>5 月 3 日～6 日 | S 49<br>7 月 21 日～24 日 | S 49<br>10 月 10 日～13 日 |            |
| 所 長  | 横 野 雄 美               | 志 波 栄 吉             | 松 本 猛                 | 竹 宮 帝 次                |            |
| 岡 山  | 3                     | 1                   | 1                     | 1                      | 6          |
| 日本連盟 | CS コース修了者<br>795(252) |                     | BC コース修了者 788         |                        | 1,583(252) |

(注) ( ) 内は女子の数

## C 昭和49年度 ウッドバッジ実修所入所状況

S 50年 3 月末現在

| 課 程  | C S                 | B S                   |                      | 総<br>計  |
|------|---------------------|-----------------------|----------------------|---------|
| 期 別  | 第 20 期              | 第 32 期                | 第 33 期               |         |
| 期 間  | S 49<br>9 月 3 日～8 日 | S 49<br>9 月 15 日～21 日 | S 49<br>11 月 1 日～7 日 |         |
| 場 所  | 金 光                 | 那 須                   | 金 光                  |         |
| 所 長  | 長 田 二 郎             | 鹿 野 重                 | 山 田 利 雄              |         |
| 岡 山  | 2                   | 1                     | 3                    | 6       |
| 日本連盟 | CS コース修了者<br>39(10) |                       | BS コース修了者 78         | 117(10) |

(注) ( ) は女子の数

## 資 料

## 日本ギルウェル, ウッドバッジ実修所修了者数

S 50年 3 月末現在

C S 課 程 ( )内は女子の数

| 期<br>別 | 日本<br>ギル<br>ウェル<br>実修<br>所<br>第 1<br>期<br>～<br>第 6<br>期 | ウ<br>ッ<br>ド<br>バ<br>ッ<br>ジ<br>実<br>修<br>所<br>第 7<br>期<br>～<br>第 18<br>期 | ウ ッ ド バ ッ ジ 実 修 所 |              | 合<br>計  |
|--------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------------|---------|
|        |                                                         |                                                                         | 第<br>19<br>期      | 第<br>20<br>期 |         |
| 岡 山    | 1                                                       | 8                                                                       | 0                 | (2)          | 9(2)    |
| 日本連盟   | 160                                                     | 435                                                                     | 21(4)             | 18(6)        | 634(10) |

B S 課 程

| 期<br>別 | 日本<br>ギル<br>ウェル<br>実修<br>所<br>第 1<br>期<br>～<br>第 19<br>期 | ウ<br>ッ<br>ド<br>バ<br>ッ<br>ジ<br>実<br>修<br>所<br>第 20<br>期<br>～<br>第 30<br>期 | ウ ッ ド バ ッ ジ 実 修 所 |              |              | 合<br>計 |
|--------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------------|--------------|--------|
|        |                                                          |                                                                          | 第<br>31<br>期      | 第<br>32<br>期 | 第<br>33<br>期 |        |
| 岡 山    | 12                                                       | 6                                                                        | 0                 | 0            | 3            | 21     |
| 日本連盟   | 656                                                      | 1068                                                                     | 28                | 21           | 29           | 1802   |

## 昭 和 49 年 度 一 般 会 計 決 算 書

自昭和49年 4 月 1 月

至昭和50年 3 月31日

| 収 入 総 額   | 支 出 総 額   | 差 引 残 高 |
|-----------|-----------|---------|
| 2,256,835 | 2,256,835 | 0       |

## 収 入 の 部

| 項 目       | 予 算 額     | 決 算 額     | 増 減 △    | 摘 要                 |
|-----------|-----------|-----------|----------|---------------------|
| 収 入 総 額   | 2,516,000 | 2,256,835 | △259,165 |                     |
| 1 登 録 費   | 1,210,000 | 1,387,500 | 177,500  | 隊77コ隊, スカウト数1,872名  |
| 2 補 助 金   | 250,000   | 180,000   | △ 70,000 | 県150,000 日本連盟30,000 |
| 3 雑 収 金   | 16,000    | 59,426    | 43,426   | 預金利息外               |
| 4 財団より繰入金 | 1,040,000 | 629,909   | △410,091 | 一般会計助成金             |

支 出 の 部

| 項 目             | 予 算 額     | 決 算 額     | 増 減 △    | 摘 要                     |
|-----------------|-----------|-----------|----------|-------------------------|
| 支 出 総 額         | 2,516,000 | 2,256,835 | △259,165 |                         |
| 1 指 導 教 育 費     | 815,000   | 793,010   | △ 21,990 |                         |
| (1) 指 導 者 養 成 費 | 255,000   | 233,610   | △ 21,390 | 各種研究会、講習会、実修所各補助外       |
| (2) 派 遣 費       | 260,000   | 301,100   | 41,100   | 日本連盟全国会議、日本連盟諸会議外       |
| (3) 行 事 費       | 150,000   | 109,360   | △ 40,640 | ラリー、B・P祭外               |
| (4) 普 及 宣 伝 費   | 90,000    | 80,000    | △ 10,000 | 6NJ 記念フィルム              |
| (5) 野 外 教 材 費   | 20,000    | 22,000    | 2,000    |                         |
| (6) 表 彰 費       | 40,000    | 46,940    | 6,940    | スカウト、役員外                |
| 2 地 区 助 成 費     | 110,000   | 30,000    | △ 80,000 |                         |
| (1) 地 区 助 成 費   | 110,000   | 3,000     | △ 80,000 |                         |
| 3 登 録 費         | 656,000   | 771,860   | 115,860  |                         |
| (1) 登 録 料       | 550,000   | 640,820   | 90,820   | 日本連盟払込み1,872名分          |
| (2) 保 険 料       | 106,000   | 131,040   | 25,040   | 傷害保険 "                  |
| 4 運 営 費         | 525,000   | 661,965   | 136,965  |                         |
| (1) 事 務 費       | 30,000    | 35,639    | 5,639    | 事務用品、消耗品外               |
| (2) 備 品 費       | 0         | 29,550    | 29,550   | 連盟関係ケース印外               |
| (3) 通 信 運 般 費   | 140,000   | 160,436   | 20,436   |                         |
| (4) 会 議 費       | 130,000   | 177,080   | 47,080   | 中国ブロック会議、団委員長懇談会、事務局会議外 |
| (5) 旅 費         | 100,000   | 99,210    | △ 790    | 一般旅費                    |
| (6) 負 担 金       | 5,000     | 5,000     | 0        | 明るい県民運動推進協議会外           |
| (7) 渉 外 費       | 50,000    | 65,000    | 15,000   | 慶弔                      |
| (8) 雑 費         | 70,000    | 90,050    | 20,050   | 宛名カード 他                 |
| 5 予 備 費         | 10,000    | 0         | △ 10,000 |                         |
| (1) 予 備 費       | 10,000    | 0         | △ 10,000 |                         |
| 6 記 念 誌 編 集 費   | 400,000   | 0         | △400,000 |                         |
| (1) 記 念 誌 編 集 費 | 400,000   | 0         | △400,000 |                         |

## 大自然の中で学ぶ第6回日本ジャンボリーへの参加



第6回日本ジャンボリーは、昭和49年8月1日夜の開会式から始まり、8月6日夜の閉会式まで6日間の日程で、日本の北端北海道千歳市の千歳原で開催された。大会のテーマは「大自然」ということで、広々とした大自然の広がる北海道でのジャンボリーであり、このジャンボリーに参加した岡山連盟派遣団も、大自然の中で思う存分スカウトが各種競技に挑戦して、貴重な体験を得て帰岡した。

岡山連盟派遣団の参加概要は、次のとおりである。

第6回日本ジャンボリーへの参加総数は、26,118名で、このうち外国派遣団は429名である。

### 6 N J 外国参加状況 (49.8.1.)

| 国名         | 総人員         | 指導者 | 配置野営区 |
|------------|-------------|-----|-------|
| 1 アメリカ合衆国  | 極東協議会 148   | 26  | 第9野営区 |
|            | ハワイ 7       | 3   | 〃     |
|            | サンフランシスコ 44 | 10  | 〃     |
|            | 小計 199      |     |       |
| 2 韓国       | 本国 131      | 38  | 第7野営区 |
|            | 日本在住 17     |     | 〃     |
|            | 招待 7        |     | 第8野営区 |
|            | 小計 155      |     |       |
| 3 オーストラリア  | 7           | 1   | 第8野営区 |
| 4 ホンコン     | 7           | 1   | 〃     |
| 5 インド      | 7           | 1   | 〃     |
| 6 マレーシア    | 6           | 0   | 〃     |
| 7 パキスタン    | 5           | 1   | 〃     |
| 8 フィリピン    | 9           | 1   | 〃     |
| 9 シンガポール   | 7           | 1   | 〃     |
| 10 ベトナム    | 8           | 3   | 〃     |
| 11 インドネシア  | 14          | 2   | 〃     |
| 12 バングラデシュ | 5           | 1   | 〃     |
| 総計         | 429         | 89  | 〃     |

(注) 総人員の中には、指導者の数を含む

副長2名・副長補2名・隊付3名の総数40名で1個隊を編成した。

第1派遣隊長 矢吹寿年、第2派遣隊長 稲田朋行、第3派遣隊長 国里威夫

岡山連盟は、第6回日本ジャンボリー実行委員会から120名の参加割当があり、それに岡山連盟派遣団本部要員を加えて122名が参加した。

岡山連盟派遣団は、3個隊編成で派遣団長は金光整雄理事長、総隊長西田全司、(派遣団付派遣隊所属) 山田貞秀、今井重信、金光善行で派遣団本部を編成した。1個隊は、4個班編成で3個班はボーイスカウト、残りの1個班はシニアースカウトとし、ボーイスカウト24名、シニアースカウト8名の計32名のほか、隊長1名・

## 資 料

### 第6回日本ジャンボリー参加者人数各団割当表

( ) 内はスカウト数、指導者数は地区へ割当

第1地区(指導者 5名, スカウト 49名)

西大寺1(2), 西大寺2(1), 西大寺4(4), 赤磐2(5), 岡山4(7), 岡山5(3), 岡山4(7), 岡山5(3), 岡山8(3), 岡山10(2), 岡山11(4), 岡山14(4), 岡山17(1), 岡山18(2), 御津1(3), 御津2(4), 玉島3(1)

第2地区(指導者 3名, スカウト 20名)

玉野1(8), 児島1(4), 児島2(2), 児島4(2), 倉敷7(1), 倉敷10(1), 玉島1(1), 玉島4(1)

第3地区(指導者 3名, スカウト 15名)

浅口1(4), 浅口2(7), 浅口3(2), 笠岡2(1), 笠岡4(1)

第4地区(指導者 1名, スカウト 14名)

津山1(7), 真庭1(1), 真庭3(2), 英田1(4)

第5地区(指導者 1名, スカウト 7名)

高梁1(4), 阿哲1(3)

岡山連盟本部 指導者 4名

岡山派遣団総数122名(指導者 17名, スカウト 105名)

岡山連盟派遣団は、7月27日(土)の早朝岡山県庁前に集結し壮行式を行ったのち、両備バス3台に分乗して岡山を出発、舞鶴へ向った。舞鶴から新日本フェリーに乗船して、34時間日本海を航海し8月29日早朝小樽に上陸した。小樽から両備バス3台をつらねて、層雲峡など見学して網走で宿泊した。8月30日は美幌峠や摩周湖などを見学し、阿寒湖畔で宿泊。8月31日は阿寒湖畔を早朝出発して帯広・日勝峠・平取公園を見学の後、15時にジャンボリー会場の千歳市千歳原に到着し、割当てられている野営区に入り設営を行った。

8月1日夜の開会式から2・3・4日の友情ゲームや、自主参加行事に各スカウトは参加し、3日の夜は大営火・4日は宗教行事やスカウト交歓など、のびのびと大自然の中で野営生活を楽しみ、各種競技に挑戦した。8月4日には皇太子殿下が御来場の上、各野営区を御視察になり、8月5日は、午後のスカウト大集会と夜のスカウトフェスティバルや、なごりの営火にも御台臨になって、自ら営火に御点火された。8月6日は午前中自由交歓の時間であったが、岡山連盟派遣団は早朝から撤営を行い、10時に両備バスに分乗してジャンボリー会場を出発し、白老アイヌ部落、昭和新山、札幌市内観光を行って札幌市内に宿泊した。8月7日は7時に札幌を出発して小樽港へ直行、8時30分に新日本海フェリーに乗船し、往路と同じく34時間船中生活をおくって、8月8日18時に舞鶴へ上陸した。そのあと岡山へ直行し、岡山へ帰着したのは8月9日の早朝1時であった。

岡山連盟派遣団の第6回日本ジャンボリー参加日程表は次の表のとおりである。

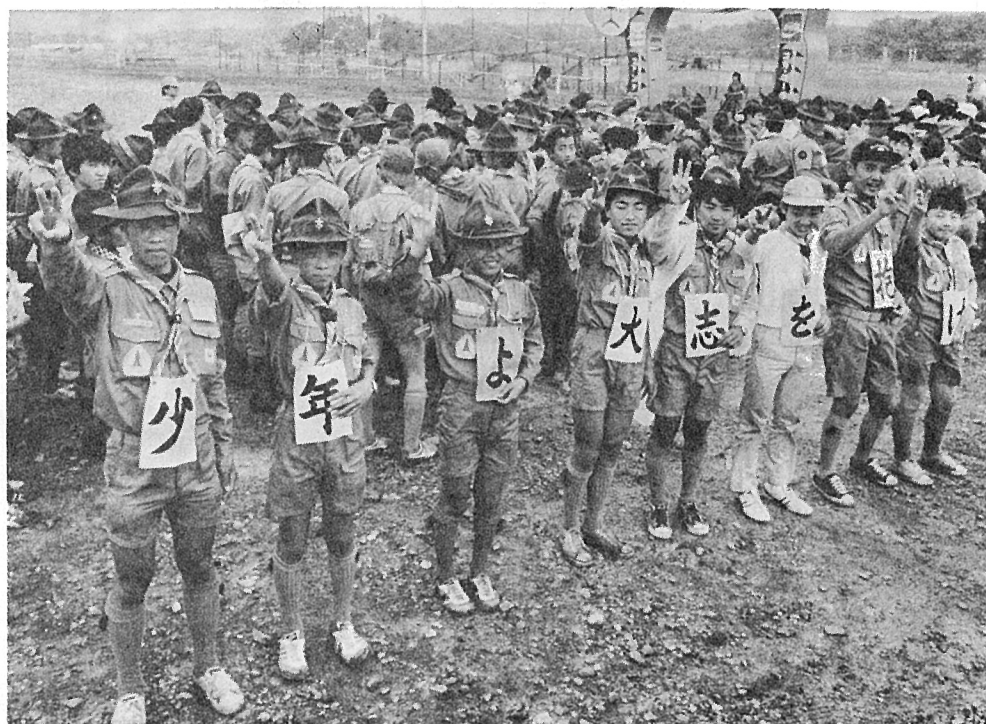
9年

|          |           |                      |                             |                           |                          |                                    |                                                        |
|----------|-----------|----------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------|------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 7/27 (土) | 8:00 岡山集結 | 9:30 岡山出発            | 11:30~12:00 太子町うかいや<br>(昼食) | —                         | 綾部東洋モーター<br>(夕食)         | 16:00~16:40 舞鶴<br>19:00            | 新日本海フェリー「すずらん丸」<br>(船中泊)                               |
| 28 (日)   | —         | —                    | —                           | —                         | —                        | —                                  | —<br>(船中泊)                                             |
| 29 (月)   | 5:30 小樽   | 7:00~7:40 札幌<br>(朝食) | 10:30~10:45 神居コタン           | 12:30~13:30 層雲峡温泉<br>(昼食) | —                        | 13:45~14:00 層雲峡<br>14:30~14:50 石北峠 | 17:00 網走                                               |
| 30 (火)   | 7:30 網走   | 8:00~8:30 原生花園       | 10:00~10:30 美幌峠             | 11:00~11:20 砂場            | 11:30~12:10 川湯温泉<br>(昼食) | 12:20~13:00 硫黄山                    | 13:30~14:00 摩周湖<br>15:00~15:20 双湖台<br>15:50~17:30 阿寒湖畔 |
| 31 (水)   | 7:00 阿寒湖畔 | 9:30~9:40 帯広         | 10:40~10:50 日勝峠             | 11:50~12:30 平取公園<br>(昼食)  | 13:30~13:50 ジャンボリー会場着    | 15:00 (ジャンボリー参加)<br>(夕食弁当)         | — (ジャンボリー参加) —                                         |
| 8/1 (木)  | —         | —                    | —                           | —                         | —                        | —                                  | —                                                      |
| 2 (金)    | —         | —                    | —                           | —                         | —                        | —                                  | —                                                      |
| 3 (土)    | —         | —                    | —                           | —                         | —                        | —                                  | —                                                      |
| 4 (日)    | —         | —                    | —                           | —                         | —                        | —                                  | —                                                      |
| 5 (月)    | —         | —                    | —                           | —                         | —                        | —                                  | —                                                      |
| 6 (火)    | 9:00 網走   | —                    | 10:00~10:30 白老アイヌ部落         | 12:00~13:30 昭和新山<br>(昼食)  | 14:45~15:10 羊ヶ丘          | — (札幌市内バス観光)                       | 18:00 札幌                                               |
| 7 (水)    | 7:00 札幌   | 8:30~9:00 小樽         | —                           | —                         | —                        | —                                  | —<br>(船中泊)                                             |
| 8 (木)    | —         | —                    | —                           | —                         | —                        | —                                  | —                                                      |
| 9 (金)    | 1:00 岡山   | —                    | —                           | —                         | —                        | —                                  | —                                                      |





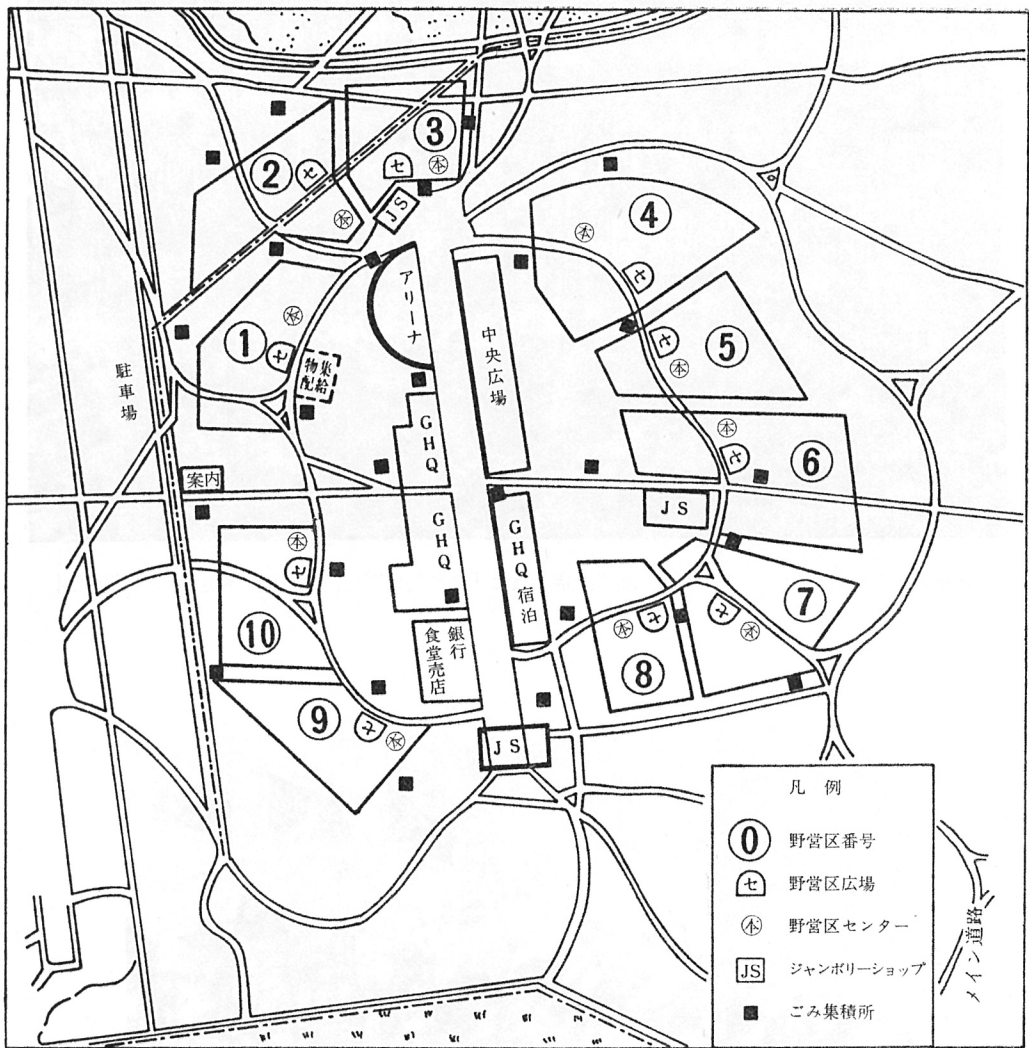
ジャンボリー入口

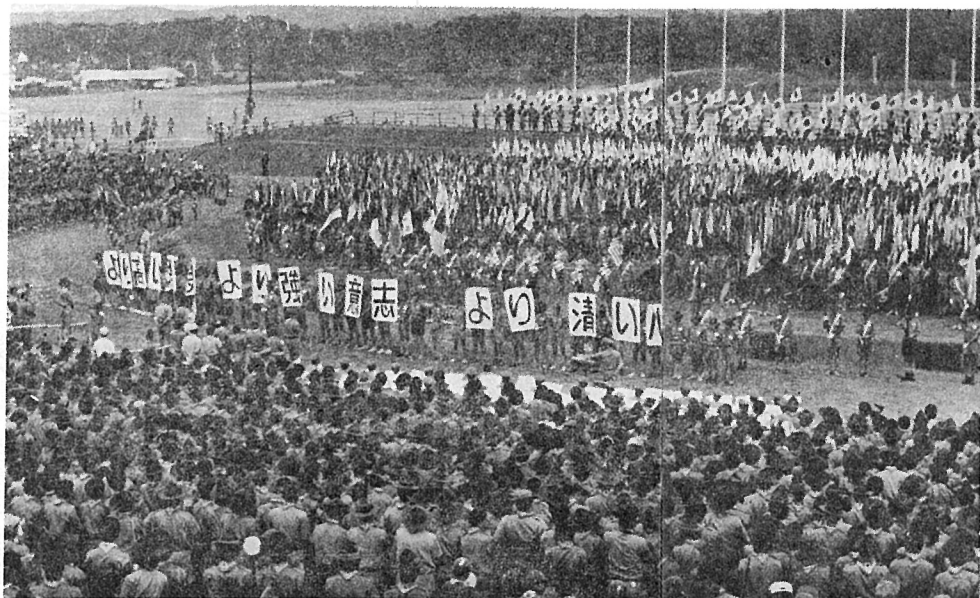


友情ゲーム

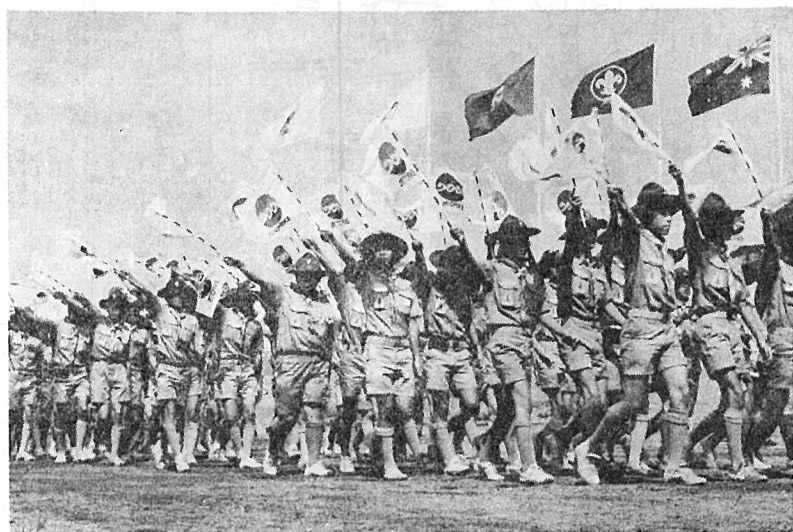


# 野 営 区 配 置





ジャンボリー大集会 スカウト会議で決議された「より高い理想，より強い意志，より清い心」



スカウトフェスティバルにおける大行進

# 大会日程とプログラム

| 日 課     | 時刻    | 7/29(月)～7/31(水) | 8/1(木)                           | 8/2(金)        | 8/3(土)                  | 8/4(日)                   | 8/5(月)                                | 8/6(火)～8/9(金)  |
|---------|-------|-----------------|----------------------------------|---------------|-------------------------|--------------------------|---------------------------------------|----------------|
| 炊事係起床   | 5:30  |                 |                                  |               | (インターナショナルデー)           |                          |                                       |                |
| 全員起床    | 6:00  |                 |                                  |               |                         |                          |                                       |                |
| 朝食      | 7:00  |                 |                                  |               |                         |                          |                                       |                |
| 国旗掲揚    | 8:30  |                 |                                  | 観察旅行<br>9:00  | 観察旅行                    | 9:00                     |                                       |                |
| 午前の活動   | 9:00  |                 |                                  | 友 情 プ<br>ゲ ーム | 自主参加<br>行 事             | 宗教行事<br>10:00            | 自主参加<br>行 事                           | 自由交歓           |
|         | 11:00 |                 |                                  | 11:00         |                         | 友情訪問<br>観察旅行             |                                       | 11:00          |
| 昼 休     | 12:00 |                 |                                  |               |                         |                          |                                       | 閉 会 式<br>12:00 |
|         | 13:30 |                 |                                  | 自主参加<br>行 事   | 自主参加<br>行 事             | 友 情 の 広 場<br>自主参加<br>行 事 | 13:30<br>ジャンボリー<br>大集会<br>15:30(全体)   | 撤 営            |
| 夕 食     | 17:30 |                 |                                  |               |                         |                          |                                       |                |
|         | 18:00 |                 |                                  |               |                         |                          | 18:50                                 | 撤 営            |
| 夜 の 行 事 | 19:00 |                 | 18:30<br>開 会 式<br>(全 体)<br>20:30 | 自由交歓          | 大 営 火<br>(全 体)<br>21:00 | 自由交歓<br>又は<br>小 営 火      | スカウト<br>フェスティバル<br>名残の営火<br>20:20(全体) | 閉 場            |
| 消 灯     | 22:00 |                 |                                  |               |                         |                          |                                       |                |



スカウトフェスティバルの大営火に点火される皇太子殿下

# 第 6 回 日 本 ジ ャ ン ボ リ ー 決 算 書

| 収入総額      | 支出総額      | 差引残高 |
|-----------|-----------|------|
| 6,850,140 | 6,850,140 | 0    |

## 収 入 の 部

| 項 目     | 予 算 額     | 決 算 額     | 増 減     | 摘 要          |
|---------|-----------|-----------|---------|--------------|
| 収 入 総 額 | 6,124,000 | 6,850,140 | 726,140 | @42,000×122名 |
| 1 参 加 費 | 5,124,000 | 5,124,000 | 0       |              |
| 2 県費補助金 | 800,000   | 1,500,000 | 700,000 |              |
| 3 財団助成金 | 200,000   | 266,140   | 26,140  |              |

## 支 出 の 部

| 項 目       | 予 算 額     | 決 算 額     | 増 減     | 摘 要                                                                                                   |
|-----------|-----------|-----------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支 出 総 額   | 6,124,000 | 6,850,140 | 726,140 | @6,000×122名<br>テント5張, 工具4組<br>炊具4組, 外<br>陣羽織外<br>指導者の手引外<br>地区本部負担金<br>バス, フェリー宿泊料外<br>現地打合せ外<br>保険料外 |
| 1 参 加 費   | 732,000   | 732,000   | 0       |                                                                                                       |
| 2 備 品 費   | 450,000   | 661,210   | 211,210 |                                                                                                       |
| 3 消 耗 品 費 | 150,000   | 380,815   | 230,815 |                                                                                                       |
| 4 印刷製本費   | 50,000    | 50,000    | 0       |                                                                                                       |
| 5 負 担 金   | 25,000    | 139,000   | 111,000 |                                                                                                       |
| 6 借 上 料   | 4,600,000 | 4,705,955 | 105,955 |                                                                                                       |
| 7 事 務 費   | 70,000    | 153,000   | 83,000  |                                                                                                       |
| 8 雑 費     | 47,000    | 153,260   | 106,260 |                                                                                                       |

## 第6回日本ジャンボリーの成果

第13回世界ジャンボリーでは、国際親善・相互理解という大きな成果をあげたが、その反面台風による緊急避難において、人間の本性であるエゴイズムが表面化し、いろいろな問題が起こった。これに対し、スカウト・スカウターは深い反省を行い、ジャンボリーのあり方についても検討された。ジャンボリーは数日間とはいえ、3万名からの急造の少年の町である。それにもかかわらず大きな事故もなく、秩序正しい野営共同社会を作りあげ、訓練の成果と、ジャンボリーの目的を達してきた。しかし、ジャンボリーにおいては、とかく解放感からくる逸脱した行為をするスカウトもいたことも事実である。そこで、第6回日本ジャンボリーでは、この点特に留意し、野営管理を周到に行った。

また心配した革新団体のジャンボリー反対運動、国労の順法ストも、7月末ギリギリの線で解決し、第6回日本ジャンボリーは、全国津々浦々、また外国からも加えて2万7,000の若者たちは、無事予定通り北海道千歳原に集結した。

8月1日、月明の下の感動的な開会式に始まる6日間の行事は、若人の熱気があふれて活発に行われた。殊に3日の大営火は満月、5日の皇太子殿下をお迎えした大集会、スカウトフェスティバルは一日中晴天に恵まれ、一段と活気づいた。ただ6日の閉会式、撤営作業は土砂降りの中で行われたが、スカウトたちは、若さと情熱を発揮して勇敢に立ち向っていた。

今回のジャンボリーの特色は次のとおりである。

- (1) 広大な会場で、平地より森林が多く、キャンプサイトはたっぷり余裕をもち、パイオニアリングの腕が十分にふるえた。
- (2) 北海道の大自然に親しむ数多くの場外プログラムをはじめ、場内の自主選択プログラムが豊富で、どれも満員、パイオニア賞取得スカウトは、実に1万4,000名を超える盛況であった。
- (3) 8月5日皇太子殿下が前後10時間にわたってご臨席になり、昼夜野営料理を召し上がり、スカウトと親しく交歓された。
- (4) 8月2、3日各県連盟から1名の代表スカウトが出席した、スカウト会議の結論が、5日の大集会のへき頭発表された。
- (5) その他のエピソードとして、夜ごとの火の用心を呼びかけて野営区を歩いたスカウト、自主的にトイレ掃除や、野営区のゴミ拾いをしたスカウトたちの無言の善行が光っていた。

## 中国ブロック会議に渡辺総長来岡

昭和50年1月25日から26日にかけて、岡山市苦田温泉のホテル泉水で、中国ブロック会議を開催した。

中国5県の代表として各連盟の理事長・県コミッショナー・事務局長が集まり、各県連盟の情報交換・組織の拡張・指導者養成・スカウトの進歩、特に県連盟の財政の確立などについて協議懇談した。この中国ブロック会議に、日本連盟から渡辺昭総長、今田忠兵衛総コミッショナー、石川一郎日本連盟事務局長が出席し、日本連盟の諸事業や最近各国におけるスカウティングの動

向などについて説明を行った。渡辺総長・石川事務局長は中国ブロック会議終了後、岡山市日応寺の岡山市立少年自然の家などを視察して帰京した。



昭和49年度中国ブロック会議 昭和50年1月25～26日  
(岡山市苫田温泉ホテル泉水)



## 昭和 50 年度における活動状況

ボーイスカウト組織拡大長期計画第 1 次 5 か年計画の 3 年度を終り、現在までの状況を考察し、団数ののびなやみについて反省すると共に、その原因の解明に務めた。

また、昨年に引続きウッドバッジ実修所の開設に協力すると共に本連盟主催のウッドバッジ研修所を行い、指導者の確保と資質の向上を図った。

第14回世界ジャンボリーに代表を派遣した。

### 1 組織 拡張

組織拡大委員会を中心に重点目標に従って、組織拡張に努力してきたが、指導者、スカウトの数は何とか現状を維持しているものの、ボーイスカウト隊は減少傾向をたどった。

#### (1) 登 録

昭和51年3月末日現在の登録状況は次のとおりである。

|           |        |
|-----------|--------|
| ◎ 登 録 団 数 | 37団    |
| 隊 数       | 78隊    |
| 班 数       | 20班    |
| 団 委 員 数   | 215名   |
| 指 導 者 数   | 256名   |
| スカウト総数    | 1,446名 |

(2) 現組織の強化、新団結成の促進

(3) 指導者養成機構の増強、団委員会活動の強化

(4) 地区活動の強化、組織未加入青少年の加入促進

### 2 指導者養成と進歩

指導者養成については、県コミッショナーを中心に、岡山連盟訓練チームによる指導者養成並びに研修に力を尽したが、昨年に引き続いて日本連盟主催のウッドバッジ実修所 2 コース (CS 課程, BS 課程) の開設協力並びに研修所 2 コース (CS 課程, BS 課程), SS 指導者研修会を実施し指導者の養成と技術の向上を図った。しかしその反面指導者講習会の開設などがやや低調であった。

#### ◎ 指導者講習会

##### ○ ボーイスカウト課程 (2 回)

|        |     |     |      |     |      |
|--------|-----|-----|------|-----|------|
| 第 1 地区 | 2 回 | 修了者 | 男 23 | 女 2 | 計 25 |
| 第 2 地区 | 1 回 | 〃   | 〃 7  | 〃 3 | 〃 10 |
| 合 計    | 3 回 | 〃   | 〃 30 | 〃 5 | 〃 35 |

##### ○ カブスカウト課程 (2 回)

|        |     |     |      |      |      |
|--------|-----|-----|------|------|------|
| 第 1 地区 | 2 回 | 修了者 | 男 12 | 女 14 | 計 26 |
| 第 2 地区 | 1 回 | 〃   | 〃 3  | 〃 9  | 〃 12 |
| 合 計    | 3 回 | 〃   | 〃 15 | 〃 23 | 〃 38 |



◎ ウッドバッジ研修所入所状況

|         |      |                  |     |
|---------|------|------------------|-----|
| 。CS課程   | 岡山   | S, 50年5月2日～5日    | 12名 |
| 。BS "   | 岡山   | S, 50年7月24日～27日  | 12名 |
|         | 大阪   | S, 50年5月2日～5日    | 2名  |
|         | 福岡   | S, 50年5月2日～5日    | 2名  |
|         | 静岡   | S, 50年6月13日～16日  | 1名  |
| 。SS特修課程 | 日本連盟 | S, 50年5月2日～5日    | 2名  |
|         | 日本連盟 | S, 50年10月24日～27日 | 2名  |

◎ ウッドバッジ実修所

|       |      |       |                 |    |
|-------|------|-------|-----------------|----|
| 。CS課程 | 第23期 | 金光野営場 | S, 50年9月10日～15日 | 1名 |
| 。BS課程 | 第36期 | "     | S, 50年8月20日～26日 | 3名 |

◎ CS特技研究会 昭和50年7月3日 参加者 35名

◎ 国内トレーナーコース及び日本連盟トレーニング・チームコースに2名の指導者が参加し、指導者訓練要員の指導、研修に役立たせると共に、スカウトの資質の向上に寄与した。

また、進歩については日本連盟で進歩制度の改正が進められているので、これに対応し、スカウトが継続的に進歩するようCS, BS, SSの一貫性について指導者の研修を行った。

3 ボーイスカウト国際行事への参加

第14回世界ジャンボリーが北欧ノールウェーで開催され本連盟から代表1名が参加し、ヨーロッパ各地を廻り国際親善と相互理解を深めて帰国した。

各 種 研 究 会

| 名 称           | 期 日                 | 場 所 | 備 考 |
|---------------|---------------------|-----|-----|
| SS隊長ハンドブック研究会 | 昭50年4月19日(土)～20日(日) | 金 光 | 舎 営 |
| BS指導者野営技術研究会  | 昭50年5月10日(土)～11日(日) | 金 光 | 野 営 |
| CS指導者特技研究会    | 昭50年7月5日(土)～6日(日)   | 岡 山 | 舎 営 |
| CS指導者テーマ研究会   | 昭51年2月7日(土)～8日(日)   | 岡 山 | 舎 営 |

昭和50年度一般会計決算書

自昭和50年4月1日

至昭和51年3月31日

| 収入総額      | 支出総額      | 差引残高 |
|-----------|-----------|------|
| 2,302,029 | 2,302,029 | 0    |

収入の部

| 項 目       | 予算額       | 決算額       | 増減△      | 摘 要               |
|-----------|-----------|-----------|----------|-------------------|
| 収入総額      | 2,316,000 | 2,302,029 | △ 13,971 |                   |
| 1 登録費     | 1,388,000 | 1,492,000 | 104,000  | 隊78隊, スカウト数1,917名 |
| 2 補助金     | 180,000   | 176,000   | △ 4,000  | 県, 外              |
| 3 雑収入     | 68,000    | 16,042    | △ 51,958 | 預金利息等             |
| 4 財団より助成金 | 680,000   | 617,987   | △ 62,013 |                   |

支出の部

| 項 目        | 予算額       | 決算額       | 増減△      | 摘 要                |
|------------|-----------|-----------|----------|--------------------|
| 支出総額       | 2,316,000 | 2,302,029 | △ 13,971 |                    |
| 1 指導教育費    | 804,000   | 761,919   | △ 42,081 |                    |
| (1) 指導者養成費 | 330,000   | 329,149   | △ 851    | 講習会, 実修所等補助外       |
| (2) 派遣費    | 270,000   | 289,180   | 19,180   | 日本連盟全国会議, 日本連盟諸会議外 |
| (3) 行事費    | 100,000   | 81,000    | △ 19,000 | ラリー, B P祭外         |
| (4) 普及宣伝費  | 50,000    | 20,000    | △ 30,000 |                    |
| (5) 野外教材費  | 10,000    | 6,900     | △ 3,100  |                    |
| (6) 表彰費    | 44,000    | 35,690    | △ 8,310  | スカウト, 役員外          |
| 2 地区助成費    | 225,000   | 120,000   | △105,000 |                    |
| (1) 地区助成金  | 225,000   | 120,000   | △105,000 |                    |
| 3 登録費      | 779,000   | 813,335   | 34,335   |                    |
| (1) 登録料    | 641,000   | 646,945   | 5,945    |                    |
| (2) 保険料    | 131,000   | 166,390   | 35,390   |                    |
| 4 運営費      | 505,000   | 596,775   | 91,775   |                    |
| (1) 事務費    | 30,000    | 31,369    | 1,369    | 事務用品               |
| (2) 印刷製本費  | 30,000    | 50,000    | 20,000   | 印刷製本費              |
| (3) 備品費    | 0         | 0         | 0        |                    |
| (4) 通信運搬費  | 150,000   | 162,879   | 12,879   |                    |
| (5) 会議費    | 130,000   | 159,427   | △ 29,427 | 諸会議                |
| (6) 旅費     | 120,000   | 119,890   | △ 110    | 一般旅費               |
| (7) 負担金    | 5,000     | 3,000     | 2,000    |                    |
| (8) 渉外費    | 20,000    | 43,000    | 23,000   | 蒜山借上料, 謝礼          |
| (9) 雑費     | 20,000    | 27,210    | 7,210    |                    |
| 5 予備費      | 10,000    | 10,000    | 0        |                    |
| (1) 予備費    | 10,000    | 10,000    | 0        |                    |

ウッドバッジ研修所決算書

| 収入総額    | 支出総額    | 差引残高 |
|---------|---------|------|
| 632,192 | 632,192 | 0    |

収入の部

| 項目       | 予算額     | 決算額     | 増減△     | 摘要 |
|----------|---------|---------|---------|----|
| 収入総額     | 630,000 | 632,192 | 2,192   |    |
| 1 参加者    | 240,000 | 246,000 | 6,000   |    |
| 2 雑収入    | 0       | 41,000  | 41,000  |    |
| 3 財団助成   | 250,000 | 205,192 | △44,808 |    |
| 4 日本連盟助成 | 140,000 | 140,000 | 0       |    |

支出の部

|        |         |         |         |  |
|--------|---------|---------|---------|--|
| 支出総額   | 630,000 | 632,192 | 2,192   |  |
| 1 旅費   | 40,000  | 67,960  | 27,960  |  |
| 2 会議費  | 20,000  | 26,768  | 6,768   |  |
| 3 消耗品費 | 40,000  | 41,888  | 1,888   |  |
| 4 印刷費  | 45,000  | 44,130  | △ 870   |  |
| 5 通信費  | 35,000  | 28,505  | △ 6,495 |  |
| 6 燃料費  | 10,000  | 13,976  | 3,976   |  |
| 7 食糧費  | 240,000 | 256,050 | 16,050  |  |
| 8 借上料  | 20,000  | 32,920  | 12,920  |  |
| 9 教具教材 | 60,000  | 63,570  | 3,570   |  |
| 10 雑費  | 70,000  | 27,610  | △42,390 |  |
| 11 予備費 | 50,000  | 45,735  | △ 4,265 |  |

# ウッドバッジ実修所決算書

| 収入総額    | 支出総額    | 差引残高 |
|---------|---------|------|
| 300,000 | 300,000 | 0    |

## 収入の部

| 項 目     | 予 算 額   | 決 算 額   | 増 減 △ | 摘 要 |
|---------|---------|---------|-------|-----|
| 収 入 総 額 | 300,000 | 300,000 | 0     |     |
| 1 財団助成金 | 200,000 | 200,000 | 0     |     |
| 2 助 成 金 | 100,000 | 100,000 | 0     |     |

## 支出の部

|           |         |         |         |        |
|-----------|---------|---------|---------|--------|
| 支 出 総 額   | 300,000 | 300,000 | 0       |        |
| 1 旅 費     | 40,000  | 39,850  | 150     |        |
| 2 会 議 費   | 20,000  | 10,500  | 9,500   |        |
| 3 消 耗 品 費 | 60,000  | 60,750  | △ 750   | ザラ紙外   |
| 4 印刷製本費   | 20,000  | 18,230  | 1,770   |        |
| 5 通信運搬費   | 10,000  | 10,070  | △ 70    |        |
| 6 食 糧 費   | 30,000  | 35,800  | △ 5,800 |        |
| 7 備 品 費   | 50,000  | 50,500  | △ 500   |        |
| 8 渉 外 費   | 40,000  | 40,000  | 0       |        |
| 9 借 上 料   | 10,000  | 10,000  | 0       | トラック借上 |
| 10 雑 費    | 10,000  | 12,000  | △ 2,000 |        |
| 11 予 備 費  | 10,000  | 12,300  | △ 2,300 |        |